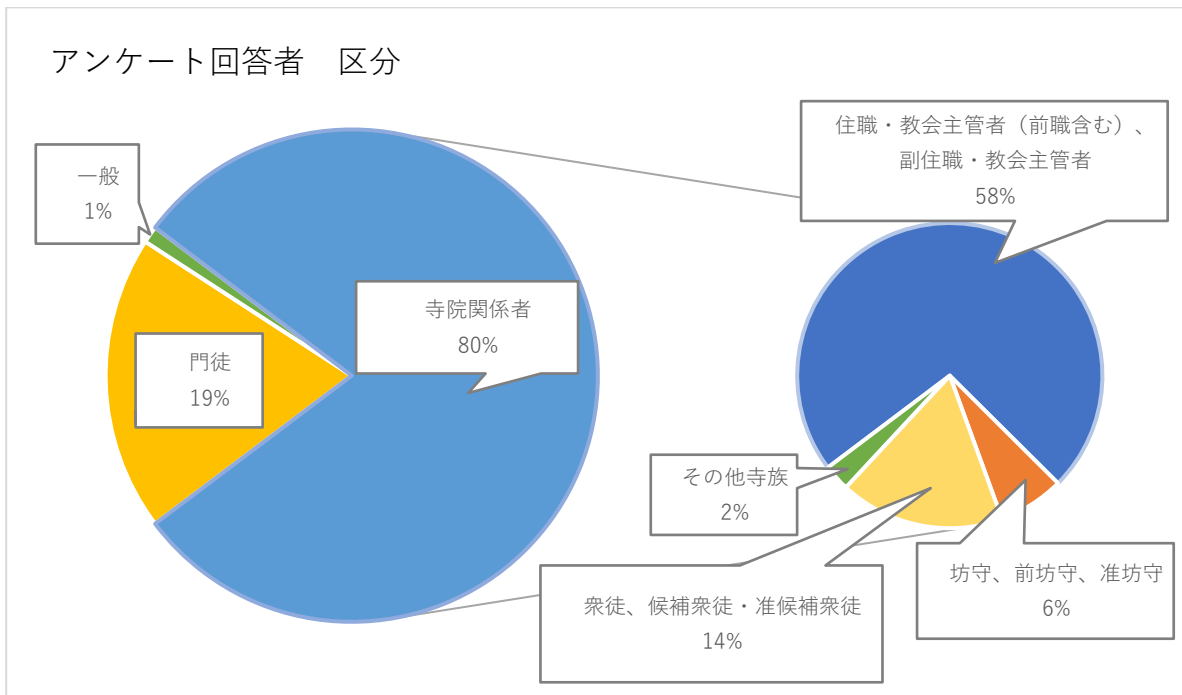


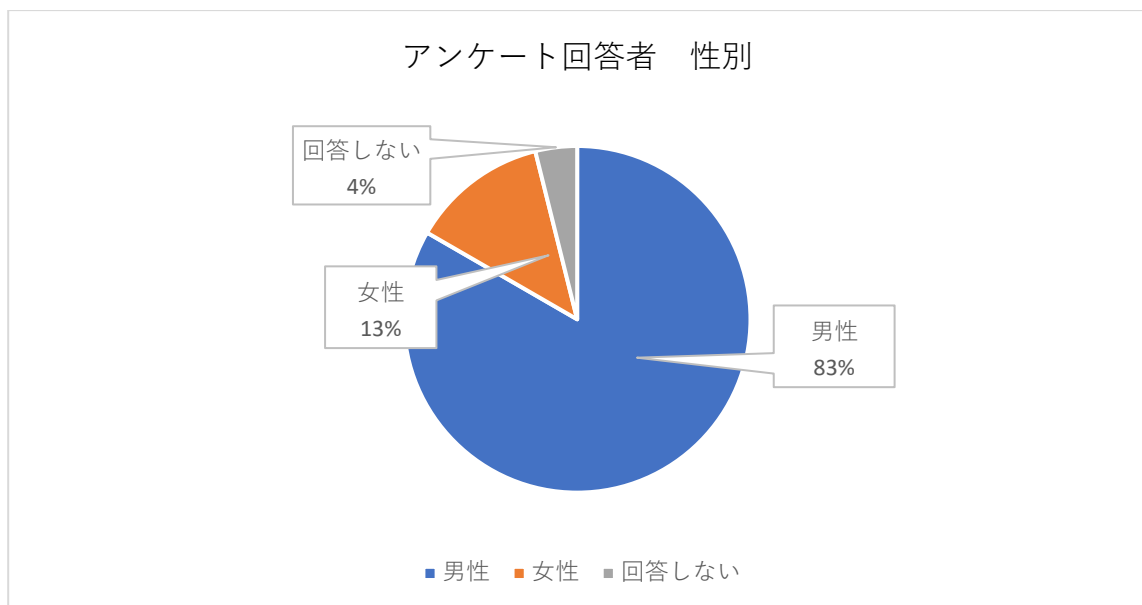
## 行財政改革検討委員会協議進捗報告に関するアンケート結果 （最終結果）

### アンケート結果概況

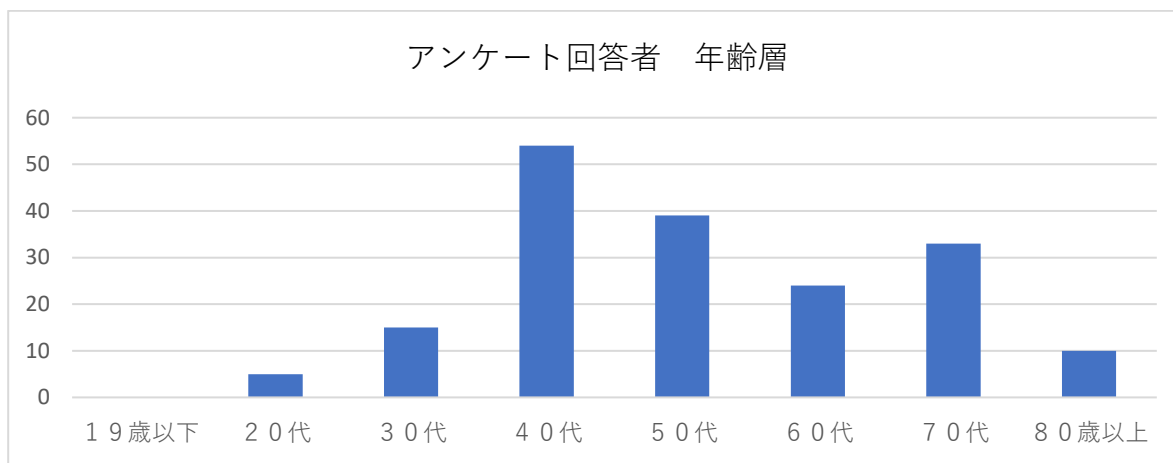
- 1 回答総数 181件（期間：2023年9月1日～10月31日）
- 2 区 分 寺院関係者 143名（79%）、門徒36名（20%）、  
一般（その他）2名（1%）
- 3 区分詳細 住職等 104名（73%）、坊守等 10名（7%）、  
衆徒等 25名（17%）、その他寺族 4名（3%）



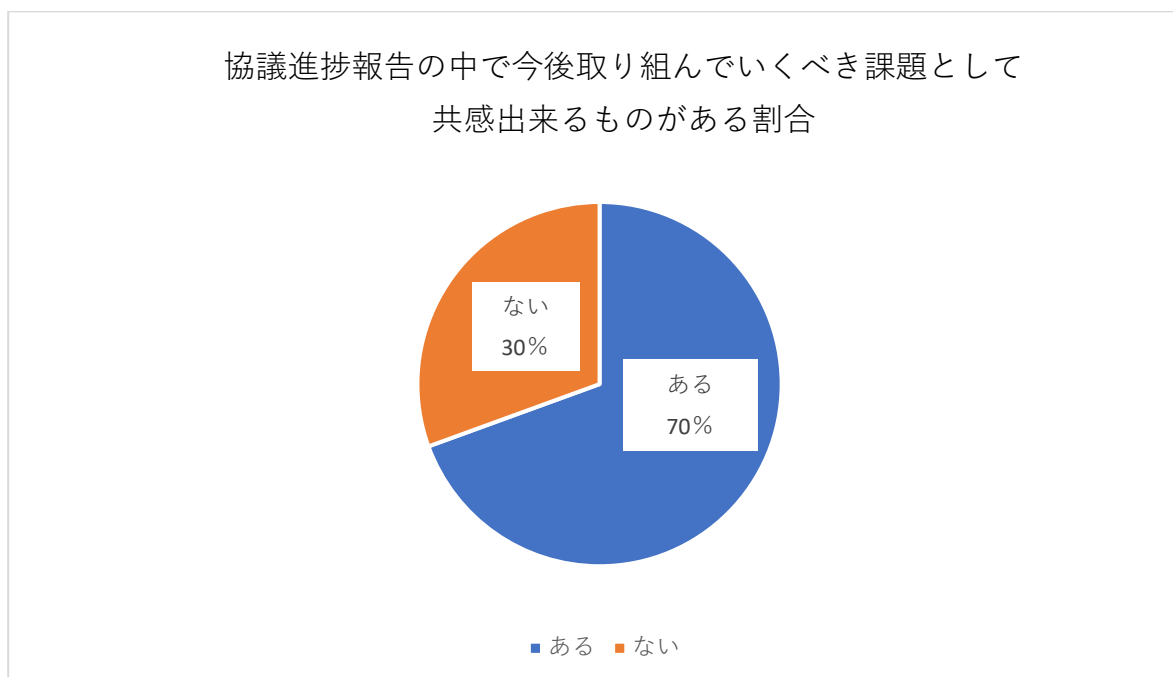
- 4 性 別 150名（83%）、24名（13%）、回答しない 7名（4%）



- 5 年齢層 19歳以下 0名、20代 5名（3%）、30代 15名（8%）、  
40代 54名（30%）、50代 39名（22%）、60代 24名（13%）、  
70代 33名（18%）、80歳以上 11名（6%）



- 6 協議進捗報告の中で今後取り組んでいくべき課題として共感出来るものがある割合  
ある 126名（70%） ない 55名（30%）



設問1 協議進捗報告の中で今後取り組んでいくべき課題として共感出来るもの  
があれば、理由とともにお答えください。

#### 凡 例

- 協議進捗報告を基にしたアンケートとなっていることから、以下の内容に関しては大別して、1.総論、2.組織機構改革関連、3.財政改革関連、4.教化改革関連に分け、その中で各諸課題別（総論は「同朋会運動の推進、趣旨の徹底」「宗務改革の必要性」「その他・アンケート等」、各改革関連【小委員会課題】は「抽出された各課題」）の内容に分類し取りまとめた。
- 設問1では報告書内容に対し「共感出来るもの」を挙げてもらう形式としていたため、アンケート回答中、項目名を挙げられていたものを「共感」数に計上し、意見の中で「共感」に該当すると思われるものもあわせて計上した。
- 上記「共感」には直接的に該当しないものの、当該項目に関して意見が述べられている回答に関しては、「意見」数として計上するとともに各内容をそのまま項目毎に列記した。
- 各項目における意見は、基本的にアンケートの提出順とした。
- 「意見」中、個人名が特定できる内容に関しては、一部表記を変更した。
- 上記「意見」の列記にあたり回答者の属性について、寺院関係者（寺族）・門徒・一般の別、年代に分けて表記した。

## 1. 総論

### 【同朋会運動の推進、趣旨の徹底】（共感7、意見10）

- ・真宗大谷派教団における行財政改革は、喫緊の課題である。教化施策に於ける真宗同朋会運動の基本理念が、観念化されてきたことによる教化活動の低迷は、御門徒の寺離れに直結している。教財一如といわれる教が、欠落した単なる財政改革に終始するならば真宗大谷派教団の存在意義は無いと思う。（寺院関係者／60代）
- ・宗門において「同朋会運動」に対する意識やイメージは「同朋会運動には関心がない」、「同朋会運動は行き詰った」等の声に代表されるように、同朋会運動に対する無関心さ、否定的な意見が散見され、そもそも宗門における「同朋会運動」に対する趣旨の徹底が図られていないことが考えられる。（門徒／70代）
- ・時代遅れである。教学ばかりにとらわれ、社会と乖離している。（寺院関係者／50代）
- ・『宗門という、信仰をもとにした共同体が、聞法という場を通じて、主体性をもって「念仏申す身となる」ことを願う運動を推進する』ということに共感を持てる。同朋会運動に立ち帰り進めて来られたことがよくわかりました。そして、より具体的に進めていくために小委員会で協議していくこともわかりました。3つの小委員会が打ち立てた基本理念はごもつと思いました。（寺院関係者／50代）
- ・我々、宗門が打ち立てる理念は素晴らしいのだが、一人が発起することに注がれるは、やはり“人”との出遇いに尽きるのではないだろうか。“人”とは自己との出遇いで終わるのではなく、同時に本願念仏に目覚めせしめる機法一体の出遇いになるような、本願念仏に生きんと願う情熱の人であると私は思う。行財政改革は世間の経営改革とは違い、本願に帰し念仏申し浄土を願い生きる者の誕生を目標にしなくてはならないのではないだろうか。自他共に一番に絶えず向き合わなくてはならない課題である。（寺院関係者／50代）
- ・「同朋会運動とは信仰運動である」という原点をあらためて明確に定義するところから出発したい。といった点。私たちは同朋会運動を歴史的事象としておさえてしまい、我が事となっていないのではないか。再度、点検が必要であると考えます。（寺院関係者／40代）
- ・僧侶も一般の門徒も同朋会運動についての基本的な知識と関心が著しく低い。すべての議論の根底に同朋会運動があることを確認しながら今後も進めていただきたい。（寺院関係者／40代）
- ・「同朋会運動」について、名称・概念・意義など、人や立場等によって理解度、受け止め方が違う。もう一度、再確認をしていくことが必要だと思う。（寺院関係者／50代）
- ・今日、宗門において「同朋会運動」に対する意識やイメージは「同朋会運動には関心がない」、「同朋会運動は行き詰った」等の声に代表されるように、同朋会運動に対する無関心さ、否定的な意見が散見され、そもそも宗門における「同朋会運動」に対する趣旨の徹底が図られ

ていないことが考えられる。これまでに幾多打ち出されてきた同朋会運動のスローガンや宗務行政施策が前面にある中で、施策に関係するものだけが同朋会運動であると矮小化されてきた結果によるものではないだろうか。このたびの宗務改革・行財政改革における「基本理念・宗門存立の願い」として「同朋運動とは信仰運動である」という原点をあらためて明確に定義するところから出発したい。』と報告されているが、やはり教師を取る段階で同朋会運動の願いを伝える施策を具体的に示して欲しい。（寺院関係者／50代）

- ・同朋会運動への言及があったが、失敗と受け止められている理由について分析し、それに対する回答と指針を示してほしい。現状の教化指針やその根本思想である同朋会運動の方針に疑問の声が上がっていることは事実なのだから、まずはその声に正面から答えてほしい。（寺院関係者／40代）
- ・同朋会運動が形骸化していないかを問い直す必要がある。（寺院関係者／60代）
- ・同朋会運動の活性化。（門徒／70代）
- ・教団の方向性がはっきりしていない。この教団をどうしようと言うのか？同朋会運動を掲げているが、具体的な、また長期的な運動方針が無い。全く人が生まれていない。教化事業を行っていることが、同朋会運動を実行していると勘違いしている宗門人が多い。現状の大谷派の研修会や講習会はカルチャーセンターとなんら変わりません。知識だけを溜め込んでいて、念仏者が生まれるような状況には無い。このことが、財にも絡んでいる。教区・組・教団組織が崩壊しつつある。（寺院関係者／60代）
- ・「同朋会運動の確かめ。」という言葉に共感する。行財政改革の根本的課題が何であるのかを再度、検討する必要性を感じている。（寺院関係者／60代）
- ・1962年の『真宗』12月号巻頭言に立ち返って、宗門の将来展望を見据えた行財政改革をすすめるという方針は大切だと思います。ただ、原点をあらためて明確に定義することなら、「同朋会運動とは信仰運動である」と表現するよりは、原文のまま「真宗同朋会とは、純粹なる信仰運動である」の方が行財政改革にふさわしいと思います。（寺院関係者／50代）
- ・改革を進めるにあたり同朋会運動をまず確かめようとされている点。クリティカルシンキングなど、考えの固執が破られていくことが歩みであるとされている点には共感できた。（寺院関係者／50代）

**【宗務改革の必要性】**（共感9、意見6）

- ・小委員会で協議される諸課題について、特にやらなくていいと思うものは一つもない。全て取り組んで実現できれば良いと思う。ただ、ずっと前から言われてきて実現していない課題を改めて並べているように見える。全てに取り組んでも、結局一つも実現しないのではないか。（寺院関係者／40代）

- ・急速に変化する時代状況の中で、教団として傾注すべき事業を見極める必要があるから。（寺院関係者／40代）
- ・課題としてはそれぞれ共感できるものばかりですが、そもそも教団がどういう状況で何に困っているかがはっきりと伝わっていないし、コンサルの方向性がどこに向かっているのか見えてこない。すなわち、アンケートをするということは、改革しなくてもいいのではという曖昧な委員会の状況が窺える。この課題は今出てきた課題ではなく、以前から考えられているものである。（中略）ある意味現在の課題は共感できるが、ほぼ答えを求めるといふより悩み続けていく課題だといっているようなものだと思う。改革してるようで改革になっていない状況が目に見えます。教区の改編にしてもイマイチ良さが見えてこない。委員会にはスペシャリストがいないのでしょうか？笑。（寺院関係者／40代）
- ・このままでは、宗門の衰退は避けられない。改革を急ぐべし。（門徒／80代～）
- ・行財政改革は早急に必要だと感じております。一つ一つが重要な問題だと感じております。（寺院関係者／30代）
- ・改革にただ批判するのではなく、崩壊しつつある地域の組織体に依存してきた寺院の必要性を考えるきっかけになる。（寺院関係者／40代）
- ・人員に対して事業が多き過ぎるため身の丈にあった事業展開を考えていくべきな為。（門徒／40代）
- ・真宗8月号96ページ「宗務改革に臨む姿勢」が列挙されていますが、同感です。以下厳しいことを申し上げますがご容赦願います。ご住職の皆さんは因習にとらわれ前例踏襲を重んじることによって安堵感をもち、自己保身に努めています。社会の激変に関心をもたず心を動かそうとされません。（中略）私が申し上げたい実態は、自分の思い込みをベースにし他者の意見に耳を傾ける力がないように思われます。真宗の教えにある「相手を尊重し敬う」は机上の空論になっていますね。物事にはWHYで終わらずHOWの姿勢で取り組むことが大切だと思います。ものさしは、自分でなく、教区の前進・組の前進・お寺の前進・門徒さんとの前進につながる価値があるかだと存じます。どうぞ「臨む姿勢」を重要視され前面に出していただきたいです。最後にこの場を借りてですが、「従来単に門徒と称していただけのもの」から脱して行くには、先ず門徒さんと仏法でつながるお寺であることが重要と存じます。貴本山より「帰敬式法座」の指定を昨年度いただいて取り組ませていただき、門徒さんも喜ばれました。これからは大切と思い、〇〇寺の帰敬式法座に取り組んでまいります。ご指導をよろしくお願いいたします。（寺院関係者／70代）
- ・その仕組みや制度が、なぜ必要なのかをゼロベースで問い直し、より効率的な方策を考えていくことが、教団だけでなく教区、組、寺院に求められていると感じました。（寺院関係者／50代）
- ・社会状況に応じてゆく必要はあるが、仏教、真宗としての基本的視座からみるという基本は

失わないようにする。教学と政治（宗門）との関係が常に問われているが。（寺院関係者／60代）

- ・改革には、改善と改悪があります。先年宗務総長は「親鸞に帰れ」と改革の道を示されました。親鸞は弟子一人も持たず、御同朋御同行とともに歩もうとされました。その具体的宗教活動は同朋会運動です。しかし内局は「行財政改革案」の中で「同朋会運動」の見直しが必要と述べ、池田先生の「連帯」という言葉を明らかに誤って解釈しています。そもそも「教団規模にあった財政」とか「同朋会運動にも財が要る」などと「財政難」ばかりが並べ立てられ、宗教用語がまったく使えないのは、営利企業の模倣に思えます。いったい何に必要なのですか？海外への開教布教やなにかですか？ 門徒指数調査は、委員の方々の大変な努力がありました。しかし内局への不信感が強く、宗務役員がやっきになっても、地方地域住職方は、門徒への説明として現状維持を決め込む方が多くいらっしゃいました。教区や組の改編は、教務所長が減ることによる人件費が恩恵とみえますが、改編はリストラのためでしたか？全国の門徒が、同じ金額の経常費をおさめ、地方の教務所は、地方の門信徒と御同朋御同行として交流する。そういう宗門のイメージで、行財政改革を見ていました。ところが、教区が広すぎて、SNSを使わないと交流できないようにしています。今現在SNSではなく対面の方が社会との接点を感じるという方が圧倒的です。もともと宗教は対面だったはずですが。せめて経常費の差額は県市の違いという所が良いと思うのですが、今の教区割りでは無理です。会費制のような経常費も一部やむを得ないと思いますが、どこまでも「真宗門徒」が支える懇志教団であってほしいと思います。（寺院関係者／60代）
- ・少子高齢化や人口減少を始めとする社会的変化、宗教離れ、寺離れという現実を踏まえて、ワークショップを持って導き出すなどの施策をとろうとしていること。（寺院関係者／60代）
- ・基本的に全面的に共感できる。特に事業の整理に向け本山・教区・組・寺院の役割の明確化は必要。本山は宗門全体のブランドイメージを体現する存在として、効果的な発信を行っていくべき。（寺院関係者／30代）
- ・同朋会運動の確かめ、これからの宗門の方向性など、新たな展開について、宗務改革の必要性が知れる。（門徒／80代～）

**【その他・アンケート等】**（意見18）

- ・コンサルタントの参画について。（寺院関係者／70代）
- ・繰り返し言っている事ですが、御影堂での語り合いこそ原点だと思います。（門徒／40代）
- ・仏教賛歌広めていく必要がある。（一般／20代）
- ・土地売却問題について門徒の認知度を上げるための広報活動が必要。（寺院関係者／40代）
- ・非常に困難な判断が、求められている委員会ですので、その苦勞が表れています。（寺院関係者／60代）

- ・「当報告書作成段階においては、課題の抽出と目指すべき宗門の未来像について検討している段階であり、具体的な課題解決のための施策案の提示には至っていない。今後、小委員会において審議を進めていく上で、このたびの報告を起点として具体的な改革案の提示（行財政改革推進計画立案）に向けて鋭意取り組んでまいりたい。」この通りであれば、約20年経ているにも関わらず、言い訳につぐ言い訳で具体的な策が無いことになる。ご立派な高尚な基本理念や同朋会運動の精神論ではなく、約20年、宗門行政を担われてきた運営や組織のプロであるはずの宗議会議員及び宗務役員の方々は何をされてきたのでしょうか。担ってきたプライドはないのでしょうか。（寺院関係者／30代）
- ・いろいろな仕組みを先人は考え作っていただいた。その積み重ねのお陰で今がある。一步引いてみると壊さず積み重ねてきているので複雑化していると思える。※経常費・相続講・ご依頼・護持金etc だれしもがここがこうなっていると仕組みが分かり説明できるのか？少なくとも住職は説明できる必要がある。使命、ビジョン、戦略が示されていると思う（寺院関係者／40代）
- ・各小委員会の整理・課題抽出を公開していること（が評価できる）。（寺院関係者／40代）
- ・審議会、委員会のあり方（が評価できる）。各委員会で価格決定は競争入札を導入すべき。（門徒／80代～）
- ・③法座、教化活動が寺族のモチベーションと（4）真宗寺院のあるべきすがた。をどの世代に対しても門徒が参加する寺院。（門徒／80代～）
- ・門徒にとどくには。（門徒／70代）
- ・①御同朋御同行と言いながら、門徒が置き去りにになっている。②慶讃法要のために御懇志を集められたが、無駄に使われている。③僧侶と門徒が、御勤行、御法話、座談会を共有する。④お念仏が、聞こえない。慶讃法要の感話、御法話のあと、「南無阿弥陀佛」が聞こえていない。どうして拍手ではなくて、お念仏で、有ることをどうして伝えなかったのか！？不信感が、のこった。⑤親鸞聖人の教えを、門徒さん方にもっとつたえてほしい！お寺さん自身葬儀だけでなく、教えを勉強して欲しい。（門徒／70代）
- ・基本理念のフォローアップ研修。（寺院関係者／40代）
- ・大谷派宗門の中心課題は、仏の大悲心を学ぶことにある。（寺院関係者／60代）
- ・一か寺の住職の立場から、門徒との関係が薄くなりつつある過程を実感しています。それに直結する課題であると感じるところは多いです。それはさておき、本設問は「共感できるものがあるかないか（2択）」を問う文意となっていますが、そうすると「共感できるものは（まったく）ない」と感じる人以外は全員「共感できるものがある」という回答になります。つまり「共感できないものがある」という回答を得られない（回答されることを避けている）ことになり、そこには問題を感じます。穿った見方をすれば、大半からの「共感できるものがある」との回答を得ることをもって、宗門全体としての同意（賛同）を得られたので次に進みます…という道筋を描いているのだろうかとお勘繰られてしまうかも知れません。



その点を含め、この設問の意図をはかりかねています。（寺院関係者／40代）

- 3つの小委員会で協議すべき現時点における諸課題を抽出しているが、どれも重要な課題だと思う。しかし、項目を列挙しているだけで、例えば「教区の自治制を生かした制度の構築」「交付金制度の総括・点検」等について、具体的な施策が示されていないので協議課題として取り上げることはもちろん共感出来るが、内容について共感出来るかと問われてもそもそも無理がある。（寺院関係者／50代）
- 課題については、至極一般的なもののばかりに感じます。共感はできますが、今までの議論を確認しているのだろうかと思議に思います。例えば、組織機構小委員会での情報共有や、ネットワークの構築などは、そのために親鸞交流館が設置されたのではないのでしょうか。あるいは、男女共同（平等）参画の実現を、今更課題とすることに奇異を感じます。他の小委員会においても、課題そのものは至極真っ当なものばかりで、否定することはできませんが、具体性のない耳触りが良いものを感じてしまいます。そもそも、同朋会運動そのものを課題とした時に「同朋会運動推進に関する委員会」などの議論は確認されたのでしょうか。報告書からはそれが読み取れません。大切なことを何度も確認することは必要ですが、この度の報告書は1年間かけた委員会の成果としては、少し残念な気がします。（寺院関係者／50代）
- 必要と思うかどうかでいえば、どの課題も今後取り組んでいくべき課題だと思います。以前の内局案を白紙とした新たな改革案の内容が具体的に進捗状況の報告として示されたとき、共感できるか否か、今回のようにアンケートでの聞き取りがこまめにあるとよいと思います。（寺院関係者／50代）
- 若い世代はオウムや統一教会などの事件報道で、宗教に対して嫌悪感を抱いている。さらに少子化が目の前に迫っているわけだから、今から対策を取って備えなければ、都心の教区でもその衝撃波に耐えられない。伝統的宗派であっても、後ろを向いている相手にこっちを向いてもらうには、必死で教化しなければならない。余裕がなくなってからでは遅い。インフラや公務員、行政、医療の分野は人手不足では困るので、至るところで子どもの奪い合いになる。寄進や住職との付き合いが面倒な若い世代は、間違いなく霊園に流れる。それを食い止めるだけの魅力が寺になれば、大谷派も終焉を迎えることになる。（寺院関係者／40代）

## 2. 組織機構改革関連

### 【基本理念「一人を大切にし、人と人がつながる組織づくり」】（共感1、意見4）

- ・一丁目一番地は「僧俗ともに人を見出すこと」を今やらなければ、持続的な教化を担う組織・活動が消えてしまうから。そして、その人々をつなぐ役として本山・教区・組・別院・寺院・各家庭があり、それぞれが出来る役を担う。そのために財は積極的に投入すべき。（寺院関係者／40代）
- ・進捗報告の各小委員会の基本理念の中に組織機構は「一人を大切に」、財政改革は「宗門に属する一人ひとりが」と、「一人」「ひとり」という言葉が出てくるが、特に組織機構の「一人を大切に」という事が、本当になされているのか？甚だ疑問である。今年度の議会での総長演説にあった「足もとを明らかにする」…そこに、おのずと足もとか明らかとなり、「方向」が与えられてまいります。人は、足もとが見えなければ進むことも退くこともできません。しかし、足もとがはっきりすれば、一步、また一步と歩むことができます。現状をつぶさに把握するという事は、決して現状に留まることなく、そこに向かうべき道、方向が、「おのずと」明らかになるのだと感じます。総長の仰る通りだと思います。一刻も早く現状をつぶさに把握して、現状に留まることなく、本当に「一人を大切に」する組織を構築して頂きたいと存じます。（寺院関係者／60代）
- ・行政を執行する宗務役員ひとり一人の宗務に対する意欲を削いでいくことが重要だと思います。今の宗務は雑多過ぎで、トップダウンで個々の個性が活かされていないし、窮屈なのではないか。50年前の誕生御遠忌の頃の宗務役員はもっと生き生き、伸び伸びとしていたが、今はそれが見られない。（寺院関係者／70代）
- ・「同朋公議」を大切にせる宗教団体であってみれば、その具体化に向けて、宗門人が情報共有するために、宗務機関がどう情報公開をしていくのかについて、見直し検討を進めたい。（寺院関係者／70代）

### 【① 本山・教区・組、別院・寺院の役割の明確化と情報共有】（共感4、意見1）

- ・教区に主体性を持たせる行政改革（いい意味で）。（寺院関係者／60代）
- ・教団が無くては寺院は無く、寺院が無くては教団も無い、だからこそ意見を交わすことなく別々の方向を向くのではなく、落とし所を見つけ少しずつでもすり合わせていく事が重要だと考えるからである。（寺院関係者／20代）
- ・特に別院の位置づけを明確化し、本山と末寺をつなぐ役割が一層強固となることを期待します。（寺院関係者／70代）

### 【② 教区、組と連携した人に関するネットワークの構築】（共感2、意見0）

- ・サンガの具現化としてのネットワーク構築は教団の要。（寺院関係者／60代）

**【③ 宗門内外の人との情報を集約し、発信できる場づくり（広報の充実）】**（共感2、意見0）

- ・広報は、カルトにならないためにも社会性をもって教義活動を進めるべきだが、よい取り組みをしても発信がない。（寺院関係者／40代）
- ・もっとマスメディアを使った広報活動を期待したい。（寺院関係者／70代）

**【④ 男女共同（平等）参画の実現】**（共感5、意見0）

- ・男女共同参画について。改編前の旧教区の際は、門徒も性別を問わず教区の教化委員会や総合教化本部など、教化を話し合う場にきちんと入れていただき、意見も聞いていただきながら、運営していました。しかし、教区改編後は門徒の会は外郭団体という形での位置付けになり、時代に逆行するような形に感じています。今まで交流できていた他組、他寺院の門徒さん方との交流の機会も激減してしまいました。門徒と寺院の距離も遠くなっているように感じます。とても残念です。（門徒／70代）
- ・議員等役職者がばかりで、が自然発生的に参画するのを待っていたら、あと100年かかると思うから。様々な役職に枠を作った方がよいから。（寺院関係者／40代）
- ・ほんとうの同朋協議が開かれるように変わっていかねばならないと思います。住職さんたちの知見だけでは、見落としてしまうことも多いのではないのでしょうか。（寺院関係者／40代）
- ・組織機構改革で男女共同参画の実現について、性別や年齢関係なく自由に意見が出しあえるような組織が実現できるようになるといいと思いました。（門徒／40代）

**【⑤ 教区改編後を想定した宗門組織の整備】**（共感1、意見1）

- ・教区改編後を想定した宗門組織の整備は、今更の論点で、教区再編を志した最初からなされてないのはおかしい。（寺院関係者／50代）
- ・教区改編後の宗門組織の整備→改編を他人ごとにせず、しっかりと宗門の先を考えたい。（門徒／70代）

**【⑥ 人事部の創設の検討】**（共感3、意見1）

- ・宗務役員の業務見直しをしてからでないと人員削減は出来ないと思う。人は減る、仕事は減らないでは負担が増えるばかりなので、慎重に行うべき。業務体制が早期退職が増える一因であると思う。（寺院関係者／40代）
- ・宗務役員の給与を上げることも考えるなど、視点をもっと客観的にみてはどうでしょうか。魅力ある教団にしないと！困っていないならほどほどにでよろしいかと。すべてはコミニケ

ーション不足にあるところですね。（寺院関係者／40代）

- ・私は宗務役員の経験はないが、その方々の苦労を垣間見るに、人事部は絶対に必要だと思う。宗務役員はただの労働力ではなく、多くの方が退職の後もお寺に関わって仕事をします。住職になれる方も多いでしょう。また、寺院出身でない方も親鸞聖人の教えを聞き続けていられるのでしょうか。現在、どのように人事が決定されるのかは存じませんが、普通の会社とは違うので、退職後まで視野にいたした人事をしてほしいです。そうすれば、必然的にパワハラ・セクハラなども、議論がしやすくなると思います。また、これは共感とは逆になりますが、上記の理由により、人件費の削減はやめてほしいです。財政改革において、人件費の削減は当然議論になるでしょうが、本当にそこに手をつけるべきでしょうか？真の念仏者を育てるためには、むしろ給与・待遇を改善すべきだと思います。（寺院関係者／40代）
- ・宗務機構における適正な人件費のあり方。（寺院関係者／40代）

**【⑦ 兼業住職が参画しやすい組織づくり】**（共感4、意見0）

- ・住職が兼業することはよいことだと思うが、そのことによって組の活動に参加できないし、退職後はやる気がない。（寺院関係者／40代）
- ・門徒の寺も兼務しながら維持してもらっている。門徒だけで支えられない現状には、若い住職に大変心苦しく思う。町内も、市名からすると過疎に見えないが、市内で最も過疎地域である。住職には、寺に戻って落ち着いていただきたい願いもあるが、地元で、お寺に重きをおいて子育てしてもらうことは到底不可能である。大切な寺だからこそ、門徒でできる限りの協力をしながら維持しているが、自分たちの次の世代がどこまでできるか不安である。（門徒／70代）

**【⑧ 解散、廃寺手続きにおける宗門による物心両面の支援】**（共感7、意見1）

- ・過疎地に身を置く者として、万が一の解散や廃寺となった場合、手続きの煩雑さや費用の問題があるので、宗派からの支援は不可欠。ただし、まずは寺院格差を是正すること。門徒戸数の配分の調整などに宗門がメスを入れ、多くの寺院が生き残れるようにするのが先決ではないか。（寺院関係者／40代）
- ・現在どの教区においても切実な問題であると思います。是非深刻な悩みを安心して聞いてもらえるような支援が必要だと思います。（寺院関係者／70代）
- ・解散、廃寺については自坊にも関わる切実な問題なので。（寺院関係者／60代）
- ・離脱し、法人売却した知ってるお寺があるので。大きいお寺に合併されやすい施策要望が以前、宗派内でだされていたように思いますが、怖いです。結果、親鸞会も同じ方法で富山の本願寺派の寺院を乗っ取っていました。こわいです。（寺院関係者／50代）

### 3. 財政改革関連

#### 【基本理念「教財一如、宗門に属する一人ひとりが宗門を支える」】（共感4、意見4）

- ・本山御依頼を減額してください。ご門徒が減り、そろそろ払えなくなりそうです。（寺院関係者／50代）
- ・御門徒の方より、一人ひとりの御懇志金が集まると大きな規模になるという実感を持たれた話を聞きました。財政は改革の大事さを感じ取っています。（寺院関係者／50代）
- ・財政改革。次世代に向けた宗門の基盤構築に必要と思う。（寺院関係者／70代）
- ・財政改革！ 経常費が毎年上がります。収入は、上がりません。（寺院関係者／60代）
- ・「財」について、寺院の代表役員としての住職が、どのような考えを持ち、それを門徒に対してどう依頼しているのか、その実態をまずリサーチすることが、何より必要と考える。（寺院関係者／70代）
- ・御依頼金の減額。（寺院関係者／50代）
- ・一寺院関係者としてではなくすべての僧侶、門徒が考えなければいけない内容であると思うから。（寺院関係者／20代）
- ・教財一如ということが今後重要になると思います。特に「教」の部分です。寺院といっても宗門といっても、相続されてきたのはより多くの人達が仏法を聞けるようにという、仏法相続のための手段、道具として、ご門徒方に支えられて（使ってもらって）きました。道具としての求められる役割・機能を果たせないのなら、この道具は使わないという選択をされても文句は言えません。教財一如、「教」がないのに「財」だけがあるというのはおかしいことであり、今、宗門に「財」がないということは、この宗門には「教」がないとご門徒方からみられているということです。寺に住まう一人一人が自分や家族の生活すべてを捨てても聞き求めていきたい「教」とであって、そこで初めて「財」ということが話し合えると思います。まずは「教」からです。（寺院関係者／30代）

#### 【宗門財政の適正規模の確認に基づく「地方御依頼」と「教区への財政支援」の実働】（共感

5、意見4）

- ・財政改革は 教区への財政支援は災害支援の他、教化活動実績支援を考えてほしい。（寺院関係者／50代）
- ・「行財政改革」に関しては、以前から宗門の組織規模の適正化や事務の合理化をもって財政改革を果たし、抜本的な行財政改革を行うことが喫緊の課題であることが提言されていた。現在、全国的には毎年80万人程の人口減少がある。特に、では過疎化が今後加速度的に進み、20年後は今の人口（約70万人）の約半分、30万人程になるとの予想もある。高齢化、コロナ禍による法事離れ、後継者不足等の懸念は本当に深刻であり、今後の寺院の運営に強い不安を感じる。しかし、近年、特に寺院の願事礼金は値上がりしており、また、本山の財

政規模は現状維持され、ご依頼額の割当基準の平準化の方向性に伴い、寺院に対する割当金額が上がり続けている。宗門規模の適正化、財政改革は「待ったなし」の状況。今後予測される過疎化、人口減等の現状と照らし合わせ、次年度から、早速、宗門全体の予算も縮小されていくようスライドしていくべき。（中略）「行財政改革」は以前から「喫緊の課題」とされながらも、実態は現状の宗門規模の維持が先行され、組織規模の適正化や財政改革は全く進んでいないのではないかと。（寺院関係者／40代）

- ・議論を始めるにあたり、最低限、宗門の運営を成り立たせるには年間いくらの予算が必要なのかを算出することが出発点になると思います。それを基に、歳出の削減を行う、もしくは新たな財源をもって現在の規模を維持するといったことを考えていくのが財政改革だと思います。しかし、実際、これまで歳出の削減は図られてきたこととは思いますので、最低限の予算は算出が難しいのかとも考えます。そうであるのならば、なるべく現在の集まる限りの御依頼の中で運営が出来るように、御依頼以外の収入で賄っている歳出の削減や繰越金を歳入として計算に入れない予算立てなどを考えるのはどうでしょうか。（寺院関係者／30代）
- ・御依頼について話し合っしてほしい。（寺院関係者／60代）
- ・何にお金をかけて、何を削るべきなのか？ 全体規模は縮小するのは避けられない。（寺院関係者／50代）
- ・宗務所・教務所の業務をスリム化して、無駄な経費を削減することで御依頼を減額することを検討し、一カ寺における教化活動の充実・僧侶の教学研鑽の充実・門徒の帰属意識の高揚を図る必要があると考えるため。（寺院関係者／30代）
- ・御依頼を本山からと教区からに分ける。それと本山は不動産等での自助努力と言うよりも、いわゆる教団外に向けた教化活動によって一人の門徒を発見することをもって財政に繋いでいく努力が大事。人件費削減の流れとは真逆だが、人と給与を増やす。これまで人件費削減に向けてどれだけ費用を使ってきたのか？教化助成は教区からにしてお金の流れを可視化すべきだと思う。助成出るからはやめた方がいい。（寺院関係者／50代）
- ・「宗門財政の適正規模の確認」と「教区割当指数単価の均等化」を、挙げられたすべての課題を審議して進めていただきたいため。（寺院関係者／60代）

#### 【教区の自治制を生かした制度の構築】（共感1、意見0）

#### 【交付金制度の総括・点検】（共感1、意見1）

- ・財政改革は当然必要である。ただし交付金制度の廃止による見せかけの御依頼額（負担金額）減はあってはならない。すなわち、本山に納める負担金額は減少しても、これまでと同じ規模の事業を教区・組で展開するには結果的に教区・組費を含めると各寺・門徒の負担額が増

となるような改悪である。例えばこれまで100万円集めてその内15万円を教区に交付していたというものを90万円集めて交付なしとするようなものである。この場合、交付なしにするならば本山が集める額は85万円でなければならない。もしくは改革というならばそれ以下の額であることが求められる。もちろん今やっていることが全て継続が必要とは思わないが、本山だけ生き残ろうとするような制度改革はあってはならない。小さな政府を目指す方向性があるとしたらそこには同意するが、トータルとしての負担割合は計算して改革して欲しい。（寺院関係者／30代）

**【宗門の安定的財源の確保】**（共感1、意見1）

- ・経費を削減することばかりに注目せず、収入を増やす方途の課題が出ていないのはいかなるものか。（寺院関係者／40代）
- ・寺院の収入は門徒の数や経済状況に依存している。何か新しい収入増の仕組みを考えていただきたい。（寺院関係者／70代）

**【「門徒戸数調査」のさらなる申告数値の精度向上に基づく門徒指数の活用】**（共感5、意見2）

- ・門徒戸数調査のさらなる申告数値の精度向上に基づく門徒指数の活用。門徒戸数調査の数がめちゃくちゃな寺院が多い。正直ものが馬鹿を見るような調査と活用はやめた方がいい。（寺院関係者／20代）
- ・今後確実にやってくる人口減少等による財政難を検討するという観点において、今回行財政改革検討委員会が立ち上げられたことは、大変に意義深いことであると感じる。特に長年の懸案事項となっていた門徒戸数調査に真摯に取り組んでいくということには大賛成であり大いに期待したいと思う一方で、その方法論などには、様々なしがらみ等があると思われる中、本当に実現できるのかということに大きな不安を感じている。（寺院関係者／50代）
- ・門徒戸数調査をしっかりと信頼をもって行い、一人ひとりの門徒からのお納めを明確にわかりやすくし、門徒に説明できるようにしなければならない。（寺院関係者／40代）
- ・門徒指数の活用が表されているが、地域によって門徒の経済力は異なり、職種・年金の種類・家族構成によっても異なるので、門徒指数×〇〇はあまりにも単純で各1か寺の負担に不公平が生じる。現場の実情申告を重視してほしい。（寺院関係者／50代）
- ・門徒戸数の厳密な精査を徹底してほしい。積極的な活用は、それができなければ意味がない。（寺院関係者／60代）
- ・門徒指数そのものを再度検討し直すべき。前回の門徒戸数調査の結果について、内局は公正性と透明性に問題があったと振り返った。もとより浄土真宗は「凡夫というは、無明煩惱われらが身にみちみちて、欲もおほく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころおほくひまなく」という私たちが、公平性や公正性など担保できるわけもなく、それが念仏もうす端緒

となるはずであった。だから門徒一人ひとりにできる限りの負担をお願いするのが大谷派であるならば、個人的には公平性公正性よりも、透明性に重点を置くべきであると思う。（寺院関係者／50代）

- ・ 門徒戸数調査によって出された指数が寺院の募財力を表すとは思えないので。（寺院関係者／60代）

**【相続講制度の総括・点検】**（共感4、意見2）

- ・ 相続講制度の総括点検については、法義相続が財政の肝であることを今後次世代に向けて周知していくことが軸足になると思われる反面、実際は、この肝心なところが形式だけになり意識が薄くなっていると感じるため。（寺院関係者／50代）
- ・ 相続講制度の点検をして欲しい。鹿児島は土地柄として院号は申込みが少なく、まして地理的に本山収骨はほぼない。この制度に地域差による優劣を感じる。あわせて、それぞれの地域でこの相続講制度による賦課金・御依頼の減額をどれほど享受しているのか数値化して示して欲しい。（寺院関係者／30代）
- ・ 相続講の制度の点検総括は必要。全体的にシステムがわからない。相続講と御依頼金や賞典の関係などを明確にすべき。教区毎の違いがあるならばそのあたりも全体的に公開していただきたい。（寺院関係者／40代）
- ・ 相続講の申請を経常費依頼額に大きく反映してほしい。（寺院関係者／50代）
- ・ 相続講制度については今までの功罪含めてしっかり点検すべきと思う。（寺院関係者／50代）



#### 4. 教化改革関連

【基本理念「これまでの聞法の間を大事にしつつ、新たなであいを開く」】（共感5、意見7）

- ・教化改革については概ね賛同する。地域での真宗寺院のあり方は、共に学び共感しつつ門徒から教えられていくという姿勢が大事。宗祖が、吉水で出あい・越後で生活・関東で触れ合い・帰洛後の執筆といったかたちで求め続けられた姿のなかで、特にどのように僧伽の形成（教えを聞き続ける人間の生き方を開く場）を求めたのか。真宗寺院はそのことを聞き開くことに力を尽くさなければならない。財は教化にこそ投入すべきと思う。（寺院関係者／40代）
- ・教化。改革は必至だが、まだその基本が見えてこない。（寺院関係者／70代）
- ・教化改革は 僧侶の質は大事であるが、僧侶に成るものがいなくなってきたことに大いに危機感を持たなくてはならない。このままでは寺の子＝僧侶に成るは10年後には1%にも成らなくなるのではないだろうか。このことは仏法への情熱が失われ、経済と自我が優先するが故に、結婚減少・僧侶への道を進められないこと・寺に住み育った意識の低下など多種多様な課題がある。（寺院関係者／50代）
- ・「教化改革」が新たな「支出科目」となり、新たな「既成事実」とされ、予算が維持され続けていくことはしないでもらいたい。（寺院関係者／40代）
- ・昔から言われている内容ばかりで、今抽出する意味があるものとは思えない。（寺院関係者／50代）
- ・一箇寺一箇寺において、現在、日常的に展開されている教化活動、及び、行事として展開されている教化活動の実情をリサーチし、把握したい。（寺院関係者／70代）
- ・もう少し勉強会を開いていただきたい。（門徒／80代～）
- ・「聞法の間を大事にし」というのは行財政改革前からの基本理念で、お寺の在り方そのもの。（門徒／70代）
- ・東本願寺出版の書籍をもっと全国紙、週刊誌、月刊誌でアピールしても良いと思います。（門徒／40代）
- ・聞法できる場所がたくさんあることはいいことだと思います。そういう場所に足を運びにくいということは、心情的なもののみならず生活上の理由（子育てなど）もあると思います。そういった人々も参加できる場が開かれていければと思います。また組によつての聞法の間は何かしら教区との連携をもちながらも行えていければと思います。どこまで深めていけるかわかりませんが、具体的に考えられており聞法の間を大事にされているのが伝わりました。（寺院関係者／30代）

【①住職、坊守、教師、僧侶になったことに終わらない、継続した学びの間を開く（フォローアップ研修の実施等）】（共感11、意見2）

- ・僧侶の質に対し、自身もスキルアップの必要性を常にかけている。儀式面、教化面、寺院運営面、学ぶ機会を持ちたいと思っている。講義などを受け、直接の指導を受けたいと思っているが、法務の都合などにより、叶わないことも多い。いつでも学べるよう、YouTubeやテキストなど個人でも学ぶ機会を持ちたい。（寺院関係者／40代）
- ・新任住職の奉仕団助成など本山としても、住職との縁が途切れないよう種々政策を考えておられるがまだ足りないと感じるからである。（寺院関係者／30代）
- ・まず、伝達者が教えに出会う事が最重要。つぎに伝達する能力の向上（学習意欲は伝道を志す気持ちがないと生まれない）（寺院関係者／40代）
- ・坊守になっただけで留まらないフォローが挙げられているのは有り難いです。（寺院関係者／40代）
- ・住職、坊守、教師、僧侶になったことに終わらないお寺の行事（自坊）をコロナ前にもどすにはどうすべきか？お寺に足を運んでくる方を増やすためにはどうすべきか？（門徒／70代）
- ・機会のある毎に住職等が門徒に分かりやすい話をする。（話し方、門徒との対話方法等）（門徒／70代）
- ・今年から住職として組会などに参加していますが、立場をわきまえずに言えば、住職として真宗を繁昌させようと真剣に考えている人がほとんどおらず、形だけの活動になってしまっている気がして残念でなりません。コロナで報恩講が半日になって、ラクだからこのまま行こう等という声も聞こえて来ます。まずは寺のものの信仰から、徹底していかなければならないと思います。（寺院関係者／40代）
- ・「終わらない」継続した学びの場を開く（フォローアップ研修の実施等）一に興味を持った。「長年」その立場にいて、自分のあり様、方法等の問題点にも気づくチャンスの一つになる様な研修も必要と感じる。門徒と共に、自らもふり返ってみる場が必要なのではと。（門徒／70代）
- ・今住職になって以後の研修は、任意でありますので学ばないままでも済んでしまいます。5年目研修とか、10年目研修とかなんらかの目安で研修を課しても良いのではないかと思います。（寺院関係者／70代）

【② 都市、過疎地（聞法の間が少なくなった地域）、海外や、これまで聞法の間縁がなかった人たちに、開教の視点をもって伝道の間を開く】（共感1、意見0）

- ・まず（お念仏の間の）過疎化について、個別の工夫や努力だけではどうにも立ち向かえない課題だと思います。教化の間をゆるやかに協働しながら開いていけるような工夫や仕組みが必要だと思いますし、地域によって手薄なところには人的支援ができるような体制を望みます。（寺院関係者／40代）

【③ 真宗本廟への参拝や同朋会館での研修をうながす】（共感2、意見1）

- ・具体的な施策として強化することは重要だと思います。本山へ行くと特別な感情がわくのは皆さん同じだと思います。是非そういう感動の機会を多くの人々が持てるような施策を検討していただければと思います。（寺院関係者／70代）

【④ 青少年とその親世代の声を聞き、ともに聞法する場を充実させる】（共感2、意見1）

- ・本山方針として青少年教化が挙げられているが、日頃青少年と関われる寺院はどれだけあるだろうか？送付された冊子は理想すぎて読むのを途中でやめてしまった。当寺近隣に対象となる年齢の人が全くいない。門徒宅においてもただの別居ではなく県外別居が増えており、伝道方法に苦慮している。（寺院関係者／40代）
- ・忙しい、興味がなさそうだと声をかけられづらい若者世代と繋がる事がこれからの課題だとおもう。宗門白書での問題提起以降、各現場が行動しなかった約70年の積み重ねが今の状態なのだろう。（寺院関係者／40代）

【⑤ 組が軸となって、地域の人びとの聞法の間を充実させる】（共感7、意見1）

- ・地元開催の研修会が充実すると地元の人の交流が増えるので良いです。教区が広がりすぎて、地元の人々の関係が薄れていくのを懸念しています。「これまでの聞法の間を大事にしつつ」とあるが、どうだろうか。宗門が先にあるような言い方ですが、疑問です。これまでの組織や枠組みを解体して新しいものができたが、教化の面では、やる気のある人にしか新しいものは届かないような内容に様変わりしたと思う。（寺院関係者／40代）
- ・相続ということが大切で、これは出会った者が今まさに出会おうとしている者を促していくという事。家族間の相続が失われていく現代社会においては、個々人ではなく、大きな組織ではなく、近所といった範囲のコミュニティによる伝道が最適のように思う。（寺院関係者／40代）
- ・組の推進員の高齢化により年々減少しており、早期に養成講座の再開を願っておりしたが、コロナ下の為ようやく2024年準備、2025年実施の予定。（門徒／80代～）
- ・組の協力体制は、これから必須だと思います。土徳が生まれた経緯も、地域が醸し出すものがあって誕生したのでしょう。地域だけではなく、お寺同士も助け合っていたものが、単独での成り立っていると思うようになってしまっています。一つの聞法道場が失われるのか、どんな形であれ存続されるのか、その分れ目を作るのは、組の力だと思います。（寺院関係者／50代）

【⑥ ITを活用した聞法の間を充実させる】（共感3、意見0）

- ・「ITを活用した聞法の間を充実させる」ことについて大きく共感する。「真宗の教えを次世

代に相続していくため」には必要不可欠なツールであるし、また、若い世代に限らず、実際に寺院に参詣している、あるいはしてきた世代であっても、スマートフォンの普及率は高く、70代でも8割の人間が所有しているという調査もある。また、実際に操作が不慣れであっても、YouTubeやZoomでの聴聞をきっかけに、子ども世代に操作方法を訪ね、ともに聴聞するなど、法義相続にも資する面もある。そのみならず、遠方への引っ越しや、病気など、何らかの事情があつて、寺に直接参詣することが難しくなった門徒からも、ITを活用して聞法できることへの喜びの声を私自身、耳にする。しかしながら、まだまだオンライン配信への懐疑的な声は、僧侶の中には多い。即急に本山での晨朝法話を開始したり、宗門内の僧侶や門徒が、議会をオンラインから傍聴できるようにするなど、オンライン配信の効果を実感できる施策を一刻も早く打つべきであると考えている。（寺院関係者／30代）

設問2 協議進捗報告で挙げられているもの以外で、今後小委員会で協議するべきと思う課題はありますか？理由とともにお答えください。

#### 凡 例

- 設問2は、「協議進捗報告で挙げられているもの以外で、今後小委員会で協議すべき課題」を自由記述によって聞き取りを行っているため、寄せられた各意見を設問1に準じて、1.総論、2.組織機構改革関連、3.財政改革関連、4.教化改革関連に大別した。
- 上記大別したうえで、事務局として共通すると思われる内容を項目化して分類した。
- 各意見の列記にあたり、設問1と同様に回答者の属性については、寺院関係者（寺族）・門徒・一般の別、年代に分けて表記した。

### 1. 総論

#### 【行財政改革検討委員会での審議内容、アンケート等】

- ・世間一般では、このような改革を進めるという中において、これまで宗門で取り組んできた様々な施策や事業のゼロベースからの見直しが必須だと感じているが、今回の各小委員会の中で、そのことが盛り込まれていないということに大きな疑問を感じる。我が宗門はこれまでに様々な教化事業を立ち上げ展開してきてはいるが、それに対する評価やその事業の継続という観点に対してどれだけ議論がなされてきたのかということを感じる。（寺院関係者／50代）
- ・一年間の委員会で協議は充分にできたと思うので、協議すべき課題ではなく小委員会主導での具体案作成を願う。（寺院関係者／70代）
- ・そもそもこの議案を誰に読んでもらおうと思っているのか？教団全体の文章に言えるが、何を伝えたいのかわからない内容が多すぎる。その文章を読み、意見を述べることに時間を割こうと思う人がどれだけいるのかということを検討してほしい。（寺院関係者／50代）
- ・「各々にこれまで固定化して考えている仕組みや制度について、それを握りしめたまま議論するのではなく、一旦手放して、共々に意見を交わすことの重要性を申し上げたい。」に期待します。（寺院関係者／40代）
- ・この改革案を評価する第三者機関の構築。（寺院関係者／40代）
- ・検討委員会自体の改革と委員の人選の精査。運営や組織の素人ばかりが委員をされている感

が否めない。教学的な学識ではなく、運営や組織の学識及びスキルが必要ではないか。早急に宗議会議員や宗務役員などの担当者の知識やスキルの習得を求む。理念や精神論ではなく（もう十分です）、運営や組織の改革を担っていただけるだけの知識やスキルが必要だと思います。

（寺院関係者／30代）

- ・行財政改革検討委員会を持つことはとても大切だと思います。しかし、検討をすると同時に内局からの方向性や対案などを明示して頂くと、もっと分かりやすいのかなと個人的には思います。さらに、法規に沿った上で、ある程度は内局の専決があつて良いと思つてます。（寺院関係者／30代）
- ・貴委員会の中間報告書には何らの具体性がなく掴みどころがありません。したがってこれに対する意見を述べようにもその手立てがありません。しかし、貴重な時間とエネルギーと経費を使用して取り組んでおられるわけですから、無駄な浪費にならないよう、お話し合いを進められる前提基本要件について、確認の意味で申し述べさせていただきます。（以下各項目に割り振り）（寺院関係者／70代）
- ・あるはず具体的な改革内容の提示（寺院関係者／50代）
- ・行財政改革を推し進めるなかで、基本理念をどのように改革に活かしていくのかが議論されねばならない。（寺院関係者／60代）
- ・2022年8月号の真宗では、行財政改革検討委員会が設置されたことにより、内局案で示された交付金制度の見直しや宗門護持金制度の導入は、委員会の最終報告の提出や議会等の諸々の手続きが終わるまで変更しないと書かれている。そうであるのならば、最終報告では、御依頼や交付金制度に関する将来展望について委員会の総意として提示していただきたい。進捗報告の段階では、何も具体的な議論がされていないように見える。（寺院関係者／50代）
- ・よく読み直していきたい。（門徒／80代～）
- ・各小委員会の協議事項に関する推進結果の確認、検証、指導とその方法（門徒／70代）
- ・基本理念「これまでの聞法の間を大事にしつつ、新たなであいを開く」とありますが、「これまでの聞法の間」とは何を指しているのでしょうか。毎月同朋の会なりの聞法の間を開いているお寺は驚くほど少ないのが現状です。今までちゃんと取り組んできたという認識ではなく、取り組むことができなかった現実に立ち、はじめの一步に取り組むということを通認識とすべきかと思つています。そのうえで網の目のように全国各地に聞法の間を開設していくべく講師の養成と聞法会の開設の実例を集積して基本的なノウハウを共有していくべきです。他の土地ではどうか知りませんが、私が住む地域では同朋会運動の成果というのはごくごくわずかで、江戸時代からの財産を食いつぶして今日に至つたというのが現状です。そういう現状認識から出発しましょう。今始まるのです。（寺院関係者／40代）
- ・各教区で出た質問について、協議し解答を頂きたい。（門徒／70代）
- ・各教区巡回での出た課題を取り上げ協議してほしい（門徒／70代）

【宗務改革の必要性、考え方】

- ・我が宗門だけではないが、この業界は様々なしがらみも多く、なかなか事を成し遂げるには乗り越えるべき障害も多いと思うが、我々宗門人が本当に我が事としてご本山の今後を憂い、勇気をもって大なたを振るうような大改革が行われることを切に願っています。（寺院関係者／50代）
- ・何が必要なのかだけでなく、宗門として省いてはいけないもの、無くしてはいけないものを見定めていく事が必要ではないかと考えている。（寺院関係者／20代）
- ・今現在は少ない。（門徒／70代）
- ・改革には、改善と改悪があります。先年宗務総長は「親鸞に帰れ」と改革の道を示されました。親鸞は弟子一人も持たず、御同朋御同行とともに歩もうとされました。その具体的宗教活動は同朋会運動です。しかし内局は「行財政改革案」の中で「同朋会運動」の見直しが必要と述べ、池田先生の「連帯」という言葉を明らかに誤って解釈しています。そもそも「教団規模にあった財政」とか「同朋会運動にも財が要る」などと「財政難」ばかりが並べ立てられ、宗教用語がまったく使えないのは、営利企業の模倣に思えます。いったい何に必要なのですか？海外への開教布教やなにかですか？門徒指数調査は、委員の方々の大変な努力がありました。しかし内局への不信感が強く、宗務役員がやっきになっても、地方地域住職方は、門徒への説明として現状維持を決め込む方が多くいらっしゃいました。教区や組の改編は、教務所長が減ることによる人件費が恩恵とみえますが、改編はリストラのためでしたか？全国の門徒が、同じ金額の経常費をおさめ、地方の教務所は、地方の門信徒と御同朋御同行として交流する。そういう宗門のイメージで、行財政改革を見ていました。ところが、教区が広すぎて、SNSを使わないと交流できないようにしています。今現在SNSではなく対面の方が社会との接点を感じるという方が圧倒的です。もともと宗教は対面だったはずですが、せめて経常費の差額は県市の違いという所が良いと思うのですが、今の教区割りでは無理です。会費制のような経常費も一部やむを得ないと思いますが、どこまでも「真宗門徒」が支える懇志教団であってほしいと思います。（寺院関係者／60代）
- ・宗門の現状分析と他教団の研究。宗門にとって不都合な内容であったとしても、徹底的な現状分析とその共有。例えば、門徒戸数調査にどの程度信頼性があるか。同朋会運動は、他教団、新興宗教の同様の活動の比較など。（寺院関係者／40代）
- ・今後益々不安定化するであろう社会情勢や環境の中での、問題意識や不安が宗門以外の人々と共有されていなければ、そこに畢竟依を開いていくのでなければ、開かれた教団にはならないように思う。そうした視点も必要ではないか。（寺院関係者／50代）
- ・行財政改革なのか、宗務改革なのか、宗門改革なのか。（寺院関係者／50代）
- ・相続講などは、ある意味クラウドファンディング制度であり、今様に再構築して言い換え

て世の中に訴えた方が寺院所属に関係なく、もっと広く一般的に理解されやすいと思います。共済2種なら、『どこかに寄付するつもりで、これでどこかの大谷派のお寺が続けられます』など。訴求方法に工夫を。全寺院加入しても最大約8億円ですから。（寺院関係者／50代）

#### 【宗務改革に係るスケジュール、手順の明確化等】

- ・宗務改革に関する年表によるとスタートは2001年になっていて、すでに20数年を経過しています。その間世の中は急速に変化しています。親鸞聖人の念仏の教えは永遠普遍のもので、教化の見直しではありません。あくまでも行政と財政の改革であればあまりにも時間がかかり過ぎです。宗門の危機感が無すぎると思います。もっともっと私も含めて宗務改革に関心を持つべきだと思います。（寺院関係者／70代）
- ・言うが易し行うは難し。教化改革については今まで各部門で何年も議論されてきたもののように思う。無関心層に声・熱を届け、行動させる、したくなる、せざるを得ない仕組み作りが必要だと感じる。拠点を細かく設置する、事業、報告検討の場を作る。等々。（寺院関係者／40代）
- ・同朋会運動を本気で進めるといふのなら、具体的な施策をどのような手順で構築し、宗門的コンセンサスをどのように確保して、大半の寺で取り組むことができるようにするには、宗務執行機関は今何をすべきなのかを明らかにして下さい。（寺院関係者／70代）
- ・先の内局案では、2023年度までに是が非でも改革を始めないと、宗門運営が成り立たないといりました。確かに急ぐべき課題も散見されます。どうぞ、課題の優先順位を確認してください。現状では、課題の大きさ、緊急性にチグハグを感じます。（寺院関係者／50代）

#### 【本山、住職・寺族・門徒等の意識】

- ・自らの信仰の領解について、心を開き、腹を割って話せる環境が、寺にはない。寺は、学校の先生のように教科書に書いてある教え（ご聖教）を一方的に話すだけです。質疑応答などとんでもなく、権威はこっちにあるんだという態度で、あるいは、自らを卑下して、私は凡夫ですからと、逃げるような態度で。親鸞聖人の教えに外れた人こそ、仏の救いの第一の対象だから、そのままでもいいんだとでも言いたいのでしょうか。このようなお寺に、現代の学校教育を受けた人が、自ら進んで行くはずがない。同朋会運動というのは、自らの信仰の領解について、お互いに話し、聞くことを、聞法の第一歩にして、仏法を学び合うことではないですか。（門徒／70代）
- ・訓覇師がかつて八百屋の看板をもつ八百屋では大根が売られる、大根が売ってないのは八百屋とはいえないと言われていたことをお聞きした。真宗大谷派の看板をもつ私たち末寺含め、本山に念仏、信心が見失われて、右往左往している現状から、早急に原点回帰を求めたい。過去の財産の扱いについても、仏法領として、懇切丁寧に扱っていただきたい。（寺院関係者／



40代)

- ・まずは寺族の意識改革や檀家制度の廃止を模索すべきであると考える。(寺院関係者/40代)
- ・本山自身このままでよいのか(建物ではなく存在有り様)。(寺院関係者/50代)
- ・末寺の住職の意識改革無くして、成果は産まない。上層部の議論だけで騒いでは成果は産まない。今日迄の永い経過をみれば明らか。兎に角、末寺の住職を改革に巻き込まない限り成果は上がらないと断言できる。兎に角、住職の仲間内で議論すること。それが出来なければ門徒は去って行くだろう。門徒は、住職皆さんの覚悟を待っている。それであれば門徒もついて行くでしょう。(門徒/80代~)
- ・報告の中でもあるように宗門において「同朋会運動」に対する意識やイメージは「同朋会運動には関心がない」、「同朋会運動は行き詰った」等の声に代表されるように、同朋会運動に対する無関心さ、否定的な意見が地方にはある。それは宗門における「同朋会運動」に対する趣旨の徹底が図られていないことが考えられる。また、『このたびの宗務改革・行財政改革における「基本理念・宗門存立の願い」として「同朋会運動とは信仰運動である」という原点をあらためて明確に定義するところから出発したい。』と報告されているが、やはり教師を取る段階で同朋会運動の願いを伝える施策を具体的に示して欲しい。(寺院関係者/50代)
- ・真宗同朋会運動の趣旨や実践をそれぞれの立場(住職・坊守・門徒・寺族など)で確認する。→一人ひとりの住職を育てること。(門徒/70代)
- ・今のそれぞれ(門徒・寺院)の立場からどうしていくかその方法を示していく。(門徒/70代)
- ・住職と門徒のコミュニケーションを深める政策と教務所の指導の在り方(門徒/80代~)
- ・住職にまで(門徒/70代)
- ・教区や組の研修会をいくら開いても、いつも来るメンバーは同じ。参加するのが善で、不参加が悪なのではないですが、お寺を預かる者が本気にならないといけないと思う。そのためには、どうしたらよいのか?(寺院関係者/50代)
- ・新宗教の問題に関する末寺での対応などの研修会について。(寺院関係者/50代)

## 2. 組織機構改革関連

### 【本山・教区・組・別院・寺院の役割の明確化】

- ・我が宗門のこれまでの取り組みというものは、国で例えるなら「大きな政府」的な取り組みであるとする。すなわち、教化活動の浸透を目指し様々な組織と立ち上げ、そこに財政を投入していくという考え方であろう。しかし、今後の財政の収入減ということが予想されている中では、これは適切な方途ではないと考える。この度の教区改編もこのような財政面の観点からなされたことと承知している。小生が所属する旧奥羽教区も昨年より東北教区へと改編がなされたが、一年経った今自ら感じたり、また教区事業に主体的に関わってこられたご門徒の方々の声というものは、当初予想されていた以上に非常に厳しい意見が圧倒的である。「組を主体とした教化」ということには賛同するが、実際にそれまで行っていた教化事業の予算減少ということが浮き彫りになってきているのが現状ではないか。例として同朋の会推進協議会において、新たな推進員を養成する教習に関しても、組数が圧倒的に多くなったため、旧奥羽教区時代には全7組が順番に指定を受け、前期後期で14年に一度での教習ということで取り組んできたが、東北教区となり組の数も多くなり、また推進員の在り方、育成ということに対してもなかなか足並みがそろっていないという現場の声も聴いている。当方が所属する組においては、推進員の高齢化に伴う活動の停滞を打開するために組独自の養成講座を7年に一度実施してきたが、実際ふたを開けてみたら、そこに充てられた予算ではとてもではないが講師召喚などの予算を工面できない状況にある。このことについては教区の問題として語られることかも知れないが、やはり基本的な考え方として、どの事業に重きを置き、そこにどれだけの予算をさいていくのかということだと思ふ。そのためには、先に述べた事業の見直しや廃止というところにこそ真摯に取り組んでいくことが急務であろうと感じる。（寺院関係者／50代）
- ・本山・教区・組・寺院における教化の役割分担について。重複する部分があったり、逆に遠方だと本山に行くのに多額の費用がかかる等、地域差が大きい。（寺院関係者／40代）
- ・教区の役割を論ずる前に、すべての寺院で住職・坊守が門徒有志と手を携えて、少なくとも何を為さなければならないのか、そのことなくしては同朋会運動を推進する教団の単位寺院とは言い難いという最低ラインと、未来に向けてこうなったらどうかという寺院の姿をイメージできる具体的なものを示してください。そのうえで、最低ラインやイメージが見えてこないであろう圧倒的多数の寺院に対して、誤解なくご理解を寄せていただける方法とそれを行う場の確保をどのようにするのかを示してください。さらに、それらのことがある程度具体化され大半の宗門関係者に共有理解されない限り、財政改革や組織改革には着手すべきではありません。なぜなら改革の目的が異なれば改悪になりかねません。そもそも、この二つの改革は、同朋会運動の進め方が明確になったら必然的に改めるべきは改めるは当然のこと

で、改革の内容も自ずから答え見えてくるはずだからです。（寺院関係者／70代）

- ・宗門は教区の自主・自立を目指しているのか？そうなれば本山の権威は薄れ、教団として運営できなくなると思うがどのように考えているのか？包括関係ではなく同盟関係になってしまふのでは無いのか？（寺院関係者／60代）
- ・組織機構改革に関して。宗教であることの捉えなおしてみたいなものをできればと思います。同世代でも洗脳とかそういうものを宗教と認識し、寺ということ自体が宗教とはまた別のものの位置付けにあるような気がします。そういうことも含めた役割の明確化ということが出来ればどうかと思いました。（寺院関係者／30代）
- ・かつての教化事業展開においては大きな推進力となった宗派、教区、組、別院・寺院という多重構造が、今では重荷になってきているのではないかと感じます。特に組教化、共同教化という名のもとに、寺院によっては独自にめざそうとしている教化事業の方向性とは乖離したことに注力しなければいけない状況にもなっているように感じます。例えば、大垣教区は、教化事業において教区と組はイコールでいいのではないかと思います。（寺院関係者／50代）
- ・組織機構および財政に関する教区・組レベルでの研修会などの実施について。（寺院関係者／50代）

#### 【宗派（寺院含む）機構・機能、施設関係】

- ・宗務所や事業部の地方移転。京都や東京などの都市部は家賃が高いので、リモートがある現在、移転できる部所等は地方へ移転させても良いのではないかと感じる。本廟や式務は移動できないだろうが、そもそも宗務所も京都である絶対的な理由は無いと思う。（寺院関係者／30代）
- ・財政という点で考えるならば、教務所の在り方ということも大事な視点だと感じる。すなわち、他教団の多くがそうであるように宗務役員を置かず、教区内の寺院がその任にあたっていく考え方である。当然今までのようなきめ細やかな対応は期待できないと考えるが、他教団の取り組みを学び、参考にしていきながらこれからの教務所ということについても考えていく必要があると思う。（寺院関係者／50代）
- ・同朋会館のあり方を協議していただきたい。プライバシーを考えて個室等を整えていかないと、これからの方々には受け入れられないと思う。（寺院関係者／40代）
- ・「別院」と「教務所」を分ける必要があるのか。結局、所長や駐在は兼務であったりするし、組織が分かれていると、教義活動の擦り付け合いになっているのではないかと。（寺院関係者／40代）
- ・行財政には出てきてないですが、、、、新たな箱ものは極力作るべきではないと思います。今、人口過密地域を拠点とした場所を作ろうとしても2070年には日本の人口9000万人を割ると言われていますので、、、、新たに建てるとしても40年後には維持することが困難になると思います。後世の人たちの負担を少なくする為にも、今ある建物も必要に応じては閉じて

- いき、残していくべき物、事に力を注ぐべきだと思います。（寺院関係者／30代）
- ・寺院格差の是正について、討議が十分なされているとは思えないため。（寺院関係者／40代）
  - ・組織機構（ハラスメントへの対応）（寺院関係者／40代）
  - ・組織機構改革の「教区改編後を想定した宗門組織の整備」の内容がそうなのかもしれませんが、本山の宗務機構のスリム化を協議すべきだと思います。各部門は、それぞれ業務を抱えていると思いますが、改革として必要のない部署をなくす、もしくは事業規模を縮小した上で関係部門と統合するというのを考えてはどうか。それには、教団が最低限運営するには何が必要なのかという議論が必要になると思います。例えば、寺院や所属僧侶の管理、僧侶・教師・住職などの資格管理、僧侶・門徒の資格取得のための研修に関する部門、儀式を担う部門などが本山の機能として最低限必要だと位置付けます。そして、それ以外の部門については、規模縮小や廃止等を考えることで、全体的な教団運営の歳出削減を行うことが出来ると思います。改革と銘打っているのであるから、これくらいのいわゆる「事業仕分け」が必要ではないでしょうか。（寺院関係者／30代）
  - ・即戦力となる総代人、責役、門徒会員、推進員の活動の再点検や増員。（門徒／80代～）
  - ・御門首、御新門には今以上にご活躍いただきたい。宗憲第15条第2項「門首は、僧侶及び門徒の首位にあつて、同朋とともに真宗の教法を聞信する」と規定されているので「同朋とともに」の具体的な施策を提示すべき。（寺院関係者／40代）
  - ・私は、年に7回奉仕団を引率者として参加している。一門としてもっと同朋会館を利用して欲しい。（門徒／70代）
  - ・御依頼制度・本山予算・宗務所組織など、本山のあらゆる制度や仕組みが複雑であり、若い僧侶や一般門徒にはなかなか理解し難いため、本山が遠い存在に感じられることがある。そのため、誰にでも分かりやすいシンプルな制度や組織改革が必要であると考えます。（寺院関係者／30代）
  - ・人類に捧げるといふが、真宗大谷派を世界のどれだけの人が知っているのだろうか？本山から具体的な教化施策を世界に向け発信することが大事だと思う。いまの言葉で。（寺院関係者／50代）
  - ・宗門の宗務組織そのもののあり方、組織編成のあり方を考えることが必要だと感じている。（寺院関係者／60代）
  - ・教区改編の大きな理由の一つが人件費削減と聞いてきたが、研修会で教務所に行くと以前より多くの職員がいる。また、所長巡回でも事務所が手狭な旨の説明があった。すすめている改編は本当にうまくいっているのか、疑問でもある。協議いただきたい。（門徒／70代）
  - ・真宗における家の宗教と個人の宗教の問題（いわゆる宗教二世問題への対応や門徒離れに関して）（寺院関係者／60代）
  - ・現在の「一法人一寺院」という宗門の規定が実状にあわなくなっていると感じます。人口減

少、少子化、「墓じまい」などの現下の社会問題に取り組み、かつ寺院運営を継続していくためには、一寺院が適正規模（なにが適正かは重要な課題ですが）に変化していく事が必要だと感じています。とはいえ、その変化が、即、解散や合併というには、まだまだ時期尚早であるとも感じます。門徒さん方の「わがお寺」という所属意識がなんとか残っているうちに、一法人複数寺院を実現し、その先の将来展望に備えるというステップが必要ではないかと思えます。（寺院関係者／50代）

- これまでの真宗同朋会運動に取り組みに重要な役割を果たしてきた門徒さんにつけられてる責任役員・総代、組門徒会員、推進員、帰敬式受式者などの、役職、名称、位置づけを、思い切ってシンプルにすべきだと思います。一寺院の現場で、その寺院の運営に資する形かどうかが整理のポイントだと思います。例えば、お寺のことにかかわってこなかった世代が、なんらかの機会に決意し参画して下さったときに、わかりにくすぎると思えます。わたしもこれまではそれぞれの趣旨や意味を説明し、それぞれ大切です！と伝えてきましたが、組門徒会が生まれた背景や趣旨はとても大切だと思いますが、組の規模の予算や事業計画報告を審議するにはあまりにも大所帯すぎたり、若い世代やがかかわるにはさまざまなハードルがあります。具体的には、責役総代から組門徒会員を選出することを積極的に推進していいと思えますし、そのことで推進員的な役割を発展的に組門徒会の役割にしていく、もしくは、一寺院がその寺院の運営のために必要な大きさ、形を選択できるようにしたいと思えます。もちろん明確に位置づけられてきたわけではありませんが、やはり教化事業の対象の中心は、住職が専業で携わっている寺院をイメージして形づくられてきたように思います。ただ、各寺院は、いずれ専業になることを目指しているわけではないので、複数の職業をもちながら（住職だけでなくその家族も）教化事業を行い、運営するお寺の形をちゃんと意識した教化事業、組織機構をめざしていくべきだと思います。前述の寺院の適正規模ということにも関連してくる課題だと思います。（寺院関係者／50代）
- 男女共同参画推進にあたり組制・教区制の見直し 坊守の位置づけ(寺院関係者／50代)
- 重複するのかもしれませんが、組会や教区の議決機関の構成メンバーについて、多様性を持たせるための仕組み、工夫が必要だと思います。（寺院関係者／40代）
- 関係関連学校などとの連携について。（寺院関係者／50代）

#### 【人事、宗務役員・議員等】

- 職員の採用問題や大坊残る議員が作成する、宗門改革は、口だけである。（寺院関係者／50代）
- 議員定数削減。（寺院関係者／50代）
- 宗務所員への、念仏（真宗同朋会運動）の学びの場の構築。まず、アンケート実施のページにおいて、「宗務改革（行財政改革）が目指すところは、全ての宗門人が宗門を取り巻く様々な危機を共有するところにあります。」とあった。この言葉のとおり危機の共有を目指す改革

であるなら、財政改革や組織改革は不要だろうと思う。改革そのものの立ち位置が明確になっていないのではないかと心配になる。2020年に示され、全国において大批判を浴びた「内局案」は、宗務所中心の財政改革が批判の中心であったように思われた。また、同朋会運動を旗印にと記載だけして、その内実に全くと言っていいほど触れ得ていないという指摘も印象深かった。これは、宗務所・宗務役員一人一人が自らが担当する宗務を、業務としてだけ認識し、教義や行儀、「真宗同朋会運動」というものの受け止めがほとんどないことを示している。事務遂行者である宗務所員が、「真宗同朋会運動」を自らの勤続の基本理念に据えていけるような学習の場がないといけない。そのために事務分量を軽減し、空いた時間に継続した学習の場を設ける試みはぜひ進めて欲しい。（寺院関係者／40代）

- ・宗務役員の若い方の給与はもっと多くするべきだと思います。宗務役員の仕事の意欲に関係してきます。さらに、仕事上の生産性の向上に繋がる1番の早道だと思います。そこから、DXなどを上手く導入し人員削減を行なっていくべきだと思います。（寺院関係者／30代）
- ・組織機構改革の範疇かもしれませんが、人員削減、合理化等により、宗務役員、教務所員の疲弊が懸念されます。人が働く「職場」として環境改善が急務かと思います。そのためにも、特に地方の教務所員の声も聞き取ってほしいと思います。教区人としても、教務所員の負担が少しでも軽くなるよう、自分たちで出来ることは自分たちでやるという意識を醸成したい。（寺院関係者／50代）
- ・ハラスメント撲滅の為の施策をしっかりと協議してほしい。（寺院関係者／50代）
- ・パワハラが問題になっているが、二度とないようにしてもらいたい！人事に関しても、ちゃんとした人事を。（寺院関係者／40代）
- ・宗参議会の議員定数の削減。（寺院関係者／50代）
- ・宗務役員の知識の研鑽。日商簿記3級程度の簿記の知識も持たずにコンサルに出すのは問題だと思います。単式簿記に埋もれて、採算性を考慮せず狭い範囲で経費削減にあたっている。心配です。委員の皆様の兼職の企業勤務の寺族やまた、コンサルはお寺の事の理解度に問題があると思いますが。（寺院関係者／50代）
- ・最近の宗門のハラスメント等諸事件、財産、不動産等問題など、2千円くらいで売っている書籍1冊の知識があれば対処が代わっていたはず。残念でなりません。そういった方々からの、ご指導は不安に思っております。（寺院関係者／50代）

#### 【寺院の存続、後継者問題】

- ・田舎においても世帯分離が常態化してきており親の高齢化により檀家の相続ができず寺院の檀家離れとなって来ているが、このまま行けば小規模寺院は崩壊に繋がる。良い手立てはないものかと苦慮している。（寺院関係者／80代～）
- ・後継者問題は特に深刻であり、周辺の寺院でも、後継予定者が都会に出て就職し、そのまま

廃墟寺院になってしまったところがある。今後、大谷派でもドミノ倒しの解散寺院が発生してしまうことは、十分に考えられる。（寺院関係者／40代）

- ・解散・廃寺だけでなく、複数寺院の統合や一僧侶が複数寺院の法務を請け負う体制を検討していただきたい。（寺院関係者／40代）
- ・維持困難な寺院（別院を含む）に対する支援。解散・廃寺ではない方向のこと。合併や、複数寺院の共同所有など。平たく言えば、跡継ぎがない場合や、跡継ぎと思われている方にその意思がない場合、ご門徒の皆さんが望めばそのお寺がその場所にあり続けられるような支援。現行の入寺希望者とのマッチングは、あまり機能していないように思う。結局は人脈のある方に頼らざるを得ない。住職の仕事で、ご門徒さんに最も期待されるのは、跡継ぎのことなのかもしれない。様々な事情があるし、結論の出しようもないし、難しいと思うが、協議していただけると嬉しいです。（寺院関係者／40代）
- ・門徒の高齢化や減少に各寺院が悩んでいると思われるのに、相変わらず「門徒を連れて本山に來い」と言う姿勢や、理想ばかり掲げて、各教区の現実をほとんど見ていないように思えるから。（寺院関係者／50代）
- ・地域との接点（社会問題への取り組み）（寺院関係者／40代）
- ・住職の生活保障（寺院関係者／50代）
- ・兼業寺院の参画。兼業寺院が今後増加することは容易に想像できるが、兼職しているからこそ、さまざまな職種による知見が望めることから、新しいお寺でのはたらき方を考えることができそうである。（寺院関係者／40代）
- ・毎年、寺院が解散している状況を宗門は危機感をどのくらい持っているのか？きちんと分析を行っているのか？（寺院関係者／60代）
- ・このたびの宗祖御遠忌をつとめたお寺が一体どれだけあったでしょうか。（今後つとめる予定のお寺もあるでしょうが。）「宗祖のご法事をつとめられない寺院が増加している」という具体的事象を放っておいて、別の施策をもって宗門の活性化を目論むというのであれば、本末転倒だと思うのです。大法要である必要はないと思います。ただ、その点が語られてないと思っています。（寺院関係者／40代）

#### 【門徒戸数調査】

- ・門徒戸数調査の正確性を期してください。都市部のお寺は50%くらいしか報告してないんじゃないでしょうか。（寺院関係者／50代）
- ・宗門発展の基盤を、門徒個数にするのか門徒戸数にするのか、人と人とのつながりを課題に挙げながら財政基盤を問題にする際には門徒戸数を問題にしている。戸数が増えなければ宗派は成り立たないのであろうか。個を中心に考えるべきではないか？（寺院関係者／80代～）
- ・門徒戸数調査そのものの実施方法については、現状の仕組みで精度を上げることは不可能と

感じる。寺院の経済状況を示す帳票の提出を含む抜本的な調査方法の見直しが必要と感じる。

（寺院関係者／40代）

- ・寺院の門徒数は門徒戸数調査結果以上に減少している。前回調査より少ない数を出すと、詳細な報告を求められるため、実際は大幅に減少しているのに、前回と変わらない数字を報告せざるを得ない。各寺院の実態を反映した申告となるようにしてほしい。（寺院関係者／60代）
- ・門徒戸数調査の数値が様々な施策の根拠となっていきます。同朋会運動の始まりの時期に「家の宗教」から「個の宗教へ」をスローガンとされたことを思うとき、「同朋会運動を推進する」ことが今回の行財政改革の考え方の柱になっているのであれば、教団の根拠も家の宗教から個の宗教へ変革していく有りようを検討する必要があるのではないのでしょうか。門徒戸数調査も「戸数」ではなく「個数」に変えていかないと目指すスローガンと実情には合っていないように思います。なかなか困難なことですが、検討は必要ではないかと思います。（寺院関係者／70代）
- ・門徒戸数調査の透明性が信頼に値するものであるのか、また教区間格差是正を検討していただきたい。（寺院関係者／60代）

#### 【災害対応、共済制度】

- ・災害時共済の更なる充実（第二種共済の掛金増額など）。（寺院関係者／50代）
- ・共済制度のあり方（現行制度での限界）（寺院関係者／50代）



### 3. 財政改革関連

#### 【宗派財政適正規模、会計構造・制度】

- ・宗門の会計管理がよくわからない。勘定科目別に執行しているかと思えば、教義活動別に執行しているようにも思える。管理がわからないのに「財政改革」と言われても、宗門の会計管理がよく見えず、財政健全化の努力しているように思えないのに、簡単に賛同できないのではないか。（寺院関係者／40代）
- ・内局原案で予算目標が70億という設定があったが、さまざまな値上げがあるなかで、キャップを設定するようなことはやめた方がいい。（寺院関係者／40代）
- ・その都度そのときの行政の責任者がしっかり施策を考える中での表現が予算である。当然、予算がさらに膨れ上がっていいものではないので、抑制は必要。（寺院関係者／40代）
- ・透明な財政を。不可解な財産管理をしないように。（寺院関係者／40代）
- ・財政改革に関して。各教区の財布事情もわからないので交付金などの話は少しイメージがしづらいですが、自治制などは教区ごとにより教化の差が生まれるのかなとイメージしたりします。相続講の点検とは少し違いますが、帰敬式や授与物などの礼金を相続講金のように何かしら還付のようなものがされる制度があれば増加もするのではないかと思います。しかしながら帰敬式はそういうもので利用されてはいけないと思うので、現実的なのは授与物とかになるのでしょうか。お金の構造が複雑でなかなか理解するのも難しいです。（寺院関係者／30代）
- ・宗会での参議会甲斐一議員の質問に那須参務が答弁している中で、「交付金制度の改革（教化交付金の廃止）」や「歳入構造の変成（御依頼金の義務化）」、そして「各種資金の統合（仮称財政調整基金の新設）」について言及している（『真宗』11月号掲載）。協議進捗報告で挙げられている課題には、「交付金制度の総括・点検」が「交付金制度の改革（教化交付金の廃止）」に対応しているが、他の2点については、直接対応している箇所がない。那須参務が答弁しているのであるから当然取り上げられるとは思いますが、今後小委員会で協議すべき課題として明記していただきたい。（寺院関係者／50代）
- ・交付金を無くさないための協議。（寺院関係者／50代）
- ・相続講という農村等を基盤にした募財制度は崩壊しており、本山からのご依頼を収めてくれる方を門徒、そうでなければ付き合い方を考えると、世話方や寺の門徒会の方々から攻められがちです。お金の切れ目が縁の切れ目になっています。本山きっかけです。運営しにくいです。広く浅く集めやすい金額の設定を考えてほしいです。（寺院関係者／50代）
- ・相続講の採算性（寺院関係者／50代）

### 【宗派経常費御依頼・同朋会員志・賦課金等】

- ・賦課金・ご依頼の配分方法について。これからも検討の余地しかないと思う。所感として、門徒戸数調査の結果と賦課金・御依頼の額について末寺同士、または地域事で言い争うような状況にもある。個人的感想だが、さながら、階級ごとで争うように仕向け、上にヘイトが向かわないようにする江戸の身分制度を実施されているように感じる。（寺院関係者／30代）
- ・新設されると噂される宗門護持金について。（寺院関係者／40代）
- ・各教区の経常費の集め方、集まり方の背景などを明記していいのではないかと思います。同朋会運動は60年前の行財政改革だと思っています。しかし現在では同朋会員志は集まりにくくなり、講も難しい地域もあるようです。全て地域を同じように集めていくのは難しいとしても、現在、それぞれの地域がどのような集め方をしているかを把握するだけでもかなりの意識改革になると思います。（寺院関係者／30代）
- ・同朋会員志について、本来の願いと現在の必要性（寺院関係者／40代）
- ・財政について、経済状況の地域格差の考慮（特に都市部の貧困化）。（寺院関係者／60代）
- ・相続講金による経常費充当の撤廃。40数年前の同朋会運動では、財の議論が欠如していたと思います。（門徒／70代）
- ・御依頼の公平化、透明化、収入格差の反映。（寺院関係者／50代）
- ・財政改革、特にもっと地域状況にそくした改革案を考えるべきではないか（寺院関係者／60代）
- ・「教区割当指数単価の均等化」。（寺院関係者／60代）
- ・真宗同朋会員志はなくなってしまいそうな状況ですが、財政改革のポイントとしてあらためて原点を確認するということであれば真宗同朋会員志の趣旨だと思います。例えば、懇志をお願いするときも「護持会員」「護持金」という説明が門徒さん方に伝わりやすいと実感します。ただ、やはり現状では「家単位」のかかわりであり、真宗同朋会がめざした門徒さん個人が会員という形は難しいとも感じています。（寺院関係者／50代）

### 【経費削減】

- ・経費を削減しても、行政のサービスの質を落とさないためには？便利なシステムを導入したら、みんながそれを利用できるように人の力、寺院の力の底上げが必要だと思う。（寺院関係者／40代）
- ・随意契約はだめ。全ての価格決定は全国の競争入札で行う。（門徒／80代～）
- ・財政改革小委員会の課題の中に、支出の見直しがないように思う。財政改革の基本は、経費の削減である。家計でも年収を増やすことは難しいが、日々の支出を減らすことを先ずは行うのが基本。大きな組織であろうと、その視点は共通しているはずである。無駄な事業を徹底的に減らしていただきたい。（寺院関係者／70代）

**【不動産活用・資産運用】**

- ・資産運用(門徒／70代)
- ・しんらん交流館のとなりの空き地を、有効に使って欲しい。例えば、ホテルを建てる。遠方のかたは必ず宿泊するから。(門徒／70代)

## 4. 教化改革関連

### 【教化事業・施策の点検、充実】

- ・実施した教化事業、施策を点検する基準視点の策定。施策の願いと現状と乖離している状況が散見されるため。（寺院関係者／40代）
- ・課題はすべてお金のかかる事です。また、教化の面では以前から行っております。わかりやすくシンプルにお伝えできる教化施策を考えてください。もっと広報について考えてください。（寺院関係者／40代）
- ・これまで脈々と続いてきた学習会や、新型コロナ流行をきっかけとして、立ち上がったITを活用した有志の学習会など、宗門内には、宗門や教区、組の補助や支援を受けずに、実施されている教化事業が数多く存在する。コロナ下でそういった教化事業が大きく躍進した印象がある。宗門として、新たに公式に立ち上げる必要があるものもあるだろうが、既にあるものを有効活用しても良いと思う。たとえば、広報という点では、浄土真宗の法話案内（<http://shinshuhouwa.info>）などに、宗門内の教化事業を掲載したり、掲載を薦めても良いのではないだろうか。「ITを活用した聞法の間を充実させる」ことについても、東京教区の宗門内僧侶が始めた「浄土真宗Live」について、浄土真宗ドットインフォでも過去取り上げられたことがあるが、あくまでも有志の活動ということもあり人員や活動資金などの面で難しさがあると聞く。こういったものを支援できる仕組み。既存の学習会や有志の活動を宗門としてバックアップできる仕組みを構築するべきである。資金や人員面以外でも、広報活動の支援として、宗門のWebサイトに掲載したり、案内のフライヤーを同朋新聞などに同梱したり、できることは多くある。宗門としてはオフィシャルではないが、宗門人が行っている有志の活動の支援について、ぜひ協議して良い方向にすすめて欲しい。（寺院関係者／30代）
- ・前々お寺で勉強会を開いて欲しいです。（門徒／80代～）
- ・中央主導だけではなく、各地域や地域を越えた有志の事業への支援（資金、広報等）を検討いただきたい。具体的には親鸞仏教オンライン学舎への支援です。お願いします。（寺院関係者／50代）
- ・IT化への舵を大きく切ってほしい。そのために各種研修と可能なら試験も行ってほしい。少なくとも各教区の運営層には基本的なWeb知識を身につけてほしい。現場レベルでWeb関係の改善要望を出しても毎回教区会議のレベルで否決されてしまい脱力している。理由はその会議運営層がWebを使ってなくて使いこなせていないから。その気になって勉強したら1週間で身につくのに。InstagramとFacebookとXとホームページと活字媒体の客層の違いやアプローチ法の違いを認識している人間が運営層にほしい。若者層へ届けようと企画しても効果的な施策が採用されなくて絶望感すら覚える。世の中の動きにアンテナの立っていない浮世離れした人たちがばかりが発言権を持っている現状に強い危機感を覚える。提言をしても「お念仏をしていればこと足りる」「そういう発想になるのは信心が

徹底していないからだ」というような返答ばかりで話にならない。そう言った回答をするのは何も年配者だけではなく30代の若手僧侶にもいる。特に補導経験者にその傾向が強い。これはひょっとすると真宗大谷派の幹部育成システムに重大な欠陥があるのではないのでしょうか。70代の門徒さんたちは普通にLINEやメールを使ってるのに、そこにまったくアプローチできていない。（寺院関係者／40代）

- 寺の仕事（本職）を強化して欲しい。門徒との接点が少ない。学びの場が無。聞法の場が少ない。無い無いづくしで寺はそれでよいのか？本職に立ち返って欲しい。（門徒／80代～）
- 門徒会の充実、研修を行う。（門徒／70代）
- 組の教化委員会の実稼働の推進（門徒／70代）
- フォローアップ研修でデジタルITを活用するための講義（門徒／60代）
- 教区における教化委員への職員のバックアップ（門徒／70代）
- 真宗の教え（聖人の教え）を正しく次世代に相続する（継いでいく）。（門徒／70代）
- 社会問題に対する取り組みと、社会へのアピール。（寺院関係者／50代）
- 組内行事、運営費用の本山補助（寺院関係者／40代）
- 真宗における葬儀式の意義を社会に伝達し、法事や法要等の仏事の回復をご門徒の方々と進めていく。（寺院関係者／60代）
- 個人的なものです青少幼年教化ということも同時に扱っていただければと思います（寺院関係者／30代）
- これまでも増して、宗教や人間としての心の問題は重要な課題となっているはずである。にもかかわらず、宗教ばなれ、寺ばなれなどといわれる風潮があるのは何故なのか？単なるお葬式の時だけの仏教との関わりに終わっていないか？それを縁として、繋がっていくには？熱意を求める。（門徒／70代）
- 本来、宗教は人を大事にしてきたはずであるが、宗門はそこを減らすことが本当にいいのか。施策一つ一つが行き当たりばったりになっていないか、もう一度検討してほしい。（門徒／70代）
- 各地で行われている、有志による学習会への宗派助成（多様な開催方法への）を実現してほしいです。講義録はアーカイブとしてさらに活用できるのではないのでしょうか。（寺院関係者／50代）
- 高齢化で教区組内の門徒さんの集まりが難しくなってます。無理をしてもらってます。コンパクト化を求めます。（寺院関係者／50代）
- 「念仏申す身となる」なるためには何が必要なのか、知りたい。どうすればいいのか、知りたい。（門徒／80代～）

#### 【寺院活性化】

- 寺院活性化支援の外部コンサルタントの導入。（寺院関係者／50代）

- ・1カ寺1カ寺の活性化の具体化。（寺院関係者／70代）
- ・今の寺院活性化の取り組みは極めて大事であると思慮するが、と同時に、並行して、過疎化により今まさに解散しなければならない寺院、今後考えようとしている寺院に対するケア的なもの、具体的には、そのまま門徒の離散、寺院の放置化を招かぬよう、住職の心構え的なことの周知等の施策（プロジェクト）も、そろそろ必要になってくるのではないか。（寺院関係者／40代）
- ・一カ寺のさらなる活性化。門徒さんたちから寺に運んでもらうにはどう取り組むか。（門徒／70代）

### 【次世代の僧侶・教師育成】

- ・修練、修習、他でもよいので、基礎学習や仏事法事実務に反映できる声明、教化、社会（差別問題）における仏教が学べる一貫した履修枠を設けてほしい。（寺院関係者／50代）
- ・既に宗務全体に影響を及ぼしている少子化について、単なる省力化に終始するのではなく、これからの宗門の担い手を育成することを最大の課題として進めてほしい。（寺院関係者／50代）
- ・次代に教えを手渡していく方途について、もっと大きく取り組みたい。（寺院関係者／70代）
- ・教師の位を上げる条件を厳しくすべきではないでしょうか。東京教区では教区の研修会に数回出るだけなのですが易しすぎませんか？（寺院関係者／30代）
- ・教師取得の更なる拡充（通信制 オンライン等）（寺院関係者／50代）
- ・多言語（英語、中国語、フランス語）での教化のための教材・教員の確保・教師資格取得過程の構築をしなければ、お西は生き残るかもしれないが大谷派は淘汰される。まず英訳聖典がない。日本で英語で教師資格が取れない。勤行本は北米が出してるが出版部から買えない。これではみなお西に流れてしまう。あちらには書籍があり、教員がいて、資格取得過程があり、毎年着実に数を増やしている。大谷派で英語で教化している人がどこにいるのか、国際部ですら把握していない。人を育てるのは時間がかかる。もう時間がないから、お西に協力を仰いで、教員に出向いてもらってでも人材を育成し、外国語大学と連携しながら国籍を問わず教化できる道を確認すべき。もう宗務所の採用から得度要件を外してもらいたい。これだけの仕事を任せられる人材を手に入れるには、得度なんて言っていられない。就職してから取ってもらえばいいだけの話。（寺院関係者／40代）

### 【開教（都市、過疎等）】

- ・内容はここで書くことはありませんが、宗門に対して伝えられる場がないので記します。都市部に移った門徒さんが新しい所属寺院とスムーズに関係が作れる公的なバックアップがあればと思っています。東京教区（真宗会館）では既にありますが、他では聞きませんので。

（寺院関係者／40代）

- ・人口集中の都市部をどうするのか。戦略的に且つ、早急につながりを創出する場を作らなくてはならないのではないのでしょうか。東京に別院的なものがないのは致命的。売って貸してその財源をどこに投資するのかを協議すべき。（寺院関係者／40代）
- ・消滅（解散）した寺院・教会の仏具などの取り扱いについて。（寺院関係者／40代）
- ・新規信徒・新規門徒・新規檀家への開教。宗門あげての広報。ひいては門徒（檀家）の倍増計画の立案・促進。（寺院関係者／40代）
- ・首都圏の課題もあるが、過疎地、遠隔地や真宗寺院のない地域の教化について喫緊の課題である。（寺院関係者／50代）
- ・開教の視点というのはとても大切だと思います。開教といっても、個人的には地元の同級生に、真宗の教えを伝え、自坊の所属門徒になってほしいとすすめられるかということだと思っています。ただ、その時にハードルになるのは「所属」ということです。ひろく親鸞聖人の教えを聴いてほしい、と言っても、最終的には「所属」ということを抜きには考えられないわけです。「所属」門徒さん用の教化事業と、一般市民向けの教化事業があるということなのではないでしょうか。なかなか難しい課題だと思います。特に帰敬式実践という時にそのことを感じます。（寺院関係者／50代）
- ・教化改革に「これまで聞法に縁のなかった人たちへの開教」という視点が挙げられているが、そもそも聞法に縁のない人へアプローチをするには、すでに縁のある方よりアプローチの幅が広く、これまで通りの法事・葬儀の場・講座だけでなく、近年ではマルシェ・イベントなども含まれる。このことについて、年配の方、教化活動に熱心な方からは、バタ臭いだの宗教活動ではないだのと指摘を受ける。しかし、一般の方が好む（ニーズのあるアプローチ）をとる中で、法話の場では得られない、双方向的な交流が生まれ、自分たち僧侶が使っている言葉や表現、方法論がいかに身内どまりであるか気づく契機となるのも事実であるし、門徒という形をとらなくとも、人や教えに共感し、交流が継続していくケースもある。教化の「質」（直接的な教化・間接的な教化）について、改めて捉えなおす機会は持てないだろうか。もっと言えば教化活動の方法論について、既存のフレームを廃した議論があってもいいと思う。教化活動に行き詰まりを感じる。（寺院関係者／30代）

**設問3 今後の行財政改革検討委員会での協議の進め方に期待することがあれば教えてください。**

**凡 例**

- 設問3は、「委員会での協議の進め方に期待すること」を聞き取ったが、寄せられた意見について、「期待／提案・提言」、「要望」、「懸念・疑念」、「評価」、「その他」、「期待なし・特になし」（件数ふくむ）とに大別した。
- 各意見の列記にあたり、設問1と同様に回答者の属性については、寺院関係者（寺族）・門徒・一般の別、年代に分けて表記した。

**【期待／提案・提言】**

- ・内局主導で進めていただきたい。（寺院関係者／50代）
- ・広く多くの人の意見を聞いて、丁寧な協議を求めます。特に職員一人ひとりの意見を丁寧に聞いて頂きたいと思います。（寺院関係者／60代）
- ・一つでも多く、ボトムアップの具体的政策に結びついていてもらいたい。（寺院関係者／40代）
- ・宗門内の委員だけでなく、外部専門家、大手企業に学ぶなど、次世代（学生など）も交えて、新しい視点を入れる協議をしてほしい。（寺院関係者／50代）
- ・一人ひとりの声をよく聞いて、上だけで決めない。（寺院関係者／70代）
- ・難しい面もあるだろうが、全国の寺院からの聞き取りを十分に行ってほしい。（寺院関係者／40代）
- ・自らの信仰の領解について、心を開き、腹を割って話せる場を、本山が率先して作ってほしい。また、そこでのマナー・ルールなども、同朋会運動を育てようという心で、検討して決めてほしい。（門徒／70代）
- ・未来に責任をもって、今後10年間でこれとこれはどうしてもやりたいという積極的な協議。会議に参加する方には相応以上の日当を支払った上で全責任を負う気概を持って関わってほしい。宗務役員と会議体委員が対等に責任をもって臨んでいただくためにも、手弁当のような形で行わずにしっかりと手当を充実していくことはとても大切。（寺院関係者／40代）
- ・早急に新たな行財政改革試案を作成し、それをたたき台として各教区が各組の研修会（意見徴収等）を開催し、幅広い意見を聞き取ること。（寺院関係者／70代）
- ・できるだけシンプルに、できることを早く。一気に多くのことを変えようとすれば時間ばかりかかって何も実行できません。（寺院関係者／50代）



- ・僧侶だけでなく真宗大谷派外部の有識者？の目にみえるようにする。（寺院関係者／40代）
- ・思いきった改革も必要ではないか。（寺院関係者／60代）
- ・たくさんのごことを一気に解決しようとするのではなく、優先度をつけて一つずつ確実に実現してほしい。委員会の議論だけで完璧な計画を立てることは不可能だと思うので、具体的な取り組みを始めてからも、計画変更を含めて進捗管理にコストをかけて欲しい。計画を立てる際は、目標や何故それに取り組むのかを、数値や根拠をはっきりさせて欲しい。とにかく、小さくとも手をつけられる改革から進めて欲しい。議論ばかりで宗門が動いている感じがしない。（寺院関係者／40代）
- ・門徒の意向を尊重すること。それ無くして各寺院を手次とすること門徒たちに護持会費を支払って支えてもらっている意味が失われる。（寺院関係者／40代）
- ・行財政改革として、経費削減等を考える事は当然であろうと考える。それと合わせて新規門徒、ひいては教線の拡大が必要であると考え。「人口は減るかもしれないが、真宗門徒は減らない!!」それぐらいの気概で行かないと宗門は縮小の一途を辿ると思う。（寺院関係者／40代）
- ・組や末寺の力は、経済生活を中心とした社会や意識の中で、どんどんと弱まっています。単純に組に教義活動の中心を移すことは、更なる宗門の弱体化を招く可能性もあると思われます。教区によるとは思いますが、「兼務しなくとも教義活動ができるお寺」が多くなれば、活動の活性化は厳しいでしょう。その点と、当たり前のように毎年ご依頼されている経常費の重さを感じながら、進めていってください。（寺院関係者／40代）
- ・協議の結果が目に見える形で（ビフォーアフター形式）伝えてくださると良いと思います。（寺院関係者／50代）
- ・教団を担う当事者として協議される皆さんを応援しています。（寺院関係者／40代）
- ・何処かの段階で、相反する選択肢のどちらかを決めなければならないと思います。委員会の皆さんが、他人ごととしないで欲しい。（寺院関係者／60代）
- ・門徒戸数調査（アンケート）の見直し、御依頼額の平準化、収入増加に向けての協議。院号、収骨の金額増、大谷祖廟の納骨に対する奨励、各別院の運営補助、別院と宗敬寺院との関わり、都市教化の戦略、教化助成、渉外的に交流を深めるための場の提供など。（寺院関係者／40代）
- ・このたびのような進捗報告続け、教区、組、議員を通じて、東本願寺webで報告されていることの周知を促す。ある程度の委員会、小委員会の議事録閲覧を可能にすることによって、幅広く外部の者が考えられるようになると思う。（寺院関係者／50代）
- ・先般の内局案では（特に財政面）、今ある形をいかに維持していくかに傾きすぎているように感じた。現状を素直に受け入れて、変化を恐れず、一番大切なことに力を注ぎ込むよう協議を進めていただくと有り難い。また、どんな意見に対してどう応え、結果的にどんな形になったのかを分かりやすくお伝えいただくと、協議に参加しない私たちも共に改革に取り組ん

でいることが実感できる。（寺院関係者／40代）

- せっかくネットがあるのだから、リモート傍聴参加の推進（第三者意見聞取りの促進）、内局案に出された意見（質問ではない）を都度振り返りつつ、慎重に進めること。（寺院関係者／40代）
- 物凄い速さで門徒が宗派離れしていつている事をもっと感じるべきである。そこを踏まえた上での協議をお願いしたい。（寺院関係者／40代）
- お金。（寺院関係者／70代）
- 「全ての宗門人が宗門を取り巻く様々な危機を共有するところにあります」と、検討委員や寺族、門徒に尻ぬぐいをさせるのではなく、有給者として宗門行政の専門職として、それを担ってきた宗議会議員や宗務役員が責任をとる形で勉強と仕事をすればいいだけのことだと思います。運営や組織の知識やスキルが無いのであれば、内外の諸氏方に教を請うべきではないだろうか。宗議会議員、宗務役員、しっかりしてください！（寺院関係者／30代）
- 批判の声が多いかもしれませんが、今絶対に行うべき改革だと思います。どうぞ宜しくお願いします。（寺院関係者／30代）
- 「同朋会運動」への取り組みがお寺と門徒の関係性を結ぶシンプルバットイフェクティブなことであるという認識と発信を期待しています。・お寺の行うことのすべてが同朋会運動である。・同朋会運動をしている・していない・関心がない・行き詰ったという概念ではない。・同朋会運動が大事なことを伝えるために、高尚なものとしてとらえられていったのでないか。・同朋会運動という名の信仰運動で、宗祖の教を聞き、伝えていく、みんなで確かめ合う、となりの人を同朋とみていく、真宗門徒の生活をしよう、宗祖に会いに東本願寺へ行こう、本廟奉仕をしよう、法名を受けよう。そのようなシンプルな取り組みではないか。（寺院関係者／40代）
- 実情をつぶさに知り、教区、組、末寺、別院が、今後、どのように教化活動を展開していくか、しているかの具体を集め、共に歩む道筋を明らかにしていきたい。（寺院関係者／70代）
- もっと、末寺に議論の内容をオープンにしてもらいたいのと、各教区や各組に内局が来て、意見交換をもっとしてもらいたい。「教区会の人に説明したから、いいだろう」と言う事ばかりなので、末寺には何のことかよく分からないことが多すぎる。（寺院関係者／50代）
- 進捗報告を読んで 1, 全7回委員会報告を読んだが、全体の進むべき方向が見えない。2021/6/11送付のarge【内局案】に気おされて、検討委員会全体が萎縮し、躊躇し戸惑っているように感じられる。◎【内局案】は否定されたのであり、あの報告書全体の有り様が問題だったのである。社会全体は常に流動し、刻々に応じてあるべき姿を模索していかなければならないのが現実である。それなのに、argeに【内局案】を流布し、分別を弁えたリーダーの如く立ち振る舞ったことに大勢が反発拒否したのである。この際、【内局案】の呪縛を脱すべきである。改革に勤しむ宗派の日常が、本来あるべきものとして歩むべきで

ある。（門徒／80代～）

- ・ 順次協議状況を公開しつつ、やはり聞き取りが必要 内局巡回とも言わずとも、各教区への顔を合わせての協議報告・聞き取りを含めた巡回があれば良いと思う。（寺院関係者／40代）
- ・ 文字通り「改革」を行っていただきたいです。これまでの事業の「推進」では意味がありません。組織機構であれば、教区は改編を行っております。次は、本山の機能も見直すべきと思います。財政に関しては、相続講制度という歳入の根幹は活かしつつ、収入を増やす先として門徒だけではなく一般にも目を向けるべきではないでしょうか。大谷派では、100万門徒（戸）という言い方を良く耳にしますが、日本の世帯数は5800万です。単純に、大谷派に属していない残りの5700万の10%にでも響く企画があれば、現在の歳入に関する問題を解決する糸口は見えてくるのではないのでしょうか。また、資金の「保管」だけではなく「運用」に目を向けるべきと思います。一般には、お金を稼ぐには、その分人件費や経費がかかります。年商1億円でも1億円稼ぐための経費が9000万円では意味がありません。資金運用は、手数料以外の経費がほとんどかかりません。今の宗門のマンパワー不足の状況では、人を使ってお金を稼ぐのではなく、お金に働いてもらってお金を増やすやりの方が適していると思います。2010年代以降、大胆な資金運用はタブー視されてきましたが、そういった議論にも切り込んでぜひ改革を行ってほしいです。（寺院関係者／30代）
- ・ さまざまな背景をもったメンバーが集まって協議いただいていると思う。最終報告では、是非、内局案で示された課題について、具体的な方向性を示していただきたい。結局何も大きな改革をしないというのではお金をかけて会議を開催している意味がない。（寺院関係者／50代）
- ・ 改革によって、事業の廃止を行い組織として軽量化を目指していただきたい。例えば、門徒戸数調査を本山では何年も行っている。地方でも門徒戸数調査のために会議を何回も開いている。数十年と戸数の正確性の疑念が晴れない中、今後各寺院が正しい数字を出す見通しもたっていない。いっそ、そうした会議旅費や人件費がかかる事業を廃止してほしい。浮いた分のお金で研修会を開かずとも、将来の御影堂修復のための積み立てや、御依頼減の方が寺院・門徒は求めている。（寺院関係者／70代）
- ・ 協議を進める過程でまず本山→教区→寺院へ具体的に伝えていく、スキームの構築が必要。（門徒／70代）
- ・ 各小委員会の協議結果を宗調専門委員会に同封して協議を求めたらどうか。（門徒／70代）
- ・ 原点は御影堂なので、ご門首、宗務役員、いや、大谷派に関係ある人は皆御影堂に集まり、議論をするべきと思います。（門徒／40代）
- ・ 現在の委員の皆さんに不満はありませんが、教区とかではなく、お寺や地域で教化の現場を担ってきた方、講師をつとめてきた方で比較的若い世代の人たち50代から30代くらいの、現場で苦勞してきた方を10人ほど委員に追加したほうがよいと思います。組織も財政も大

事ですが、教化の方針が明確になることが一番大事です。（寺院関係者／40代）

- ・ 具体的にどういう事業を行い、どういう業務を終了し、大まかな業務体制ではなくを細かい具体性をもった組織なのか明確にすべき。また、過去の事業及び業務が新たな変革でどこに帰属し考えられる外からの質問事項に対してのQ&Aを公開する。今だ具体案が見えていない大まかなものしかないため進捗が遅くなっている。（門徒／40代）
- ・ ①宗務改革に臨む姿勢として批判的思考法～一旦手放して、共々に意見を交わす重要性。② 少子高齢化による人口減少の時代。「戦略的に縮む」（河合雅司氏）という改革手法（門徒／70代）
- ・ 透明性ですね。会議の様子を映像ですべて公開すればいいと思います。事務側と声の大きい人だけが話し合っているだけの会議など旅費と懇親会費の無駄です。（寺院関係者／30代）
- ・ 宗門世論が納得できる新しい宗門の形が提示されれば、大きな財が伴ったとしても納得が得られるものと思う。このたびの行財政改革にかかった経費とその効果が可視化されるといいと思う。（寺院関係者／30代）
- ・ こまめに教区巡回で意見を聴取すべき。常葉町と宗門世論の考え方に大きな隔たりがあることに気づいてもらいたい（寺院関係者／60代）
- ・ 従来の物事の進め方に比べ、情報公開はされているが、委員会の協議は、遅々として、進んでいないように感じる。スピーディな協議が必要では。（寺院関係者／40代）
- ・ 改革には、改善と改悪があります。先年宗務総長は「親鸞に帰れ」と改革の道を示されました。親鸞は弟子一人も持たず、御同朋御同行とともに歩もうとされました。その具体的宗教活動は同朋会運動です。しかし内局は「行財政改革案」の中で「同朋会運動」の見直しが必要と述べ、池田先生の「連帯」という言葉を明らかに誤って解釈しています。そもそも「教団規模にあった財政」とか「同朋会運動にも財が要る」などと「財政難」ばかりが並べ立てられ、宗教用語がまったく使えないのは、営利企業の模倣に思えます。いったい何に必要なのですか？海外への開教布教やなにかですか？門徒指数調査は、委員の方々の大変な努力がありました。しかし内局への不信感が強く、宗務役員がやっきになっても、地方地域住職方は、門徒への説明として現状維持を決め込む方が多くいらっしゃいました。教区や組の改編は、教務所長が減ることによる人件費が恩恵とみえますが、改編はリストラのためでしたか？全国の門徒が、同じ金額の経常費をおさめ、地方の教務所は、地方の門信徒と御同朋御同行として交流する。そういう宗門のイメージで、行財政改革を見ていました。ところが、教区が広すぎて、SNSを使わないと交流できないようにしています。今現在SNSではなく対面の方が社会との接点を感じるという方が圧倒的です。もともと宗教は対面だったはずですが、せめて経常費の差額は県市の違いという所が良いと思うのですが、今の教区割りでは無理です。会費制のような経常費も一部やむを得ないと思いますが、どこまでも「真宗門徒」が支える懇志教団であってほしいと思います。（寺院関係者／60代）

- ・具体的な施策案の策定のため、特に「宗門財政の適正規模の確認」と「教区割当指数単価の均等化」のために、宗門運営に精通している現職やOBの宗務役員を改革検討委員会に増員して進めるべきと思います。（寺院関係者／60代）
- ・その該当地区の意見を聞いていく事が必要である。（寺院関係者／50代）
- ・宗務役員在職中にできなかったことがいっぱいあるのに、いろいろ意見を言うのは申し訳ない気がしていますが、関心をもって拝見しています。行財政改革の取り組みに期待しています。（寺院関係者／50代）
- ・寺離れや人口減少の現状において、宗門をどう維持していこうかとの議論は、内向きになる傾向がもともとあるのかもしれない。「人類に捧げる教団である」との言葉を忘れずに、協議を進めて頂きたいと思う。（寺院関係者／50代）
- ・数人の委員の経験において問いを探るのではなく、何が課題となっているかを広く探る必要があるのではないのでしょうか。そして、その方法論を専門家に尋ねてはいかがでしょうか。ここで専門家に尋ねるのは、課題を探る方法論です。何が課題となるかについては委員会の皆様が十分検討して下さることが必須と私は考えます。（寺院関係者／50代）
- ・投資で儲けたいなら証券会社にでも転職すべき。企業は必死で税金を払っている。非課税であることをいいことに資産を増やしていると思われて、布施に課税されることになったら、末寺は壊滅する。そんなにお金が欲しいなら、教化活動をして堂々と布施をもらう努力をすべき。投資で儲けようという発想がすでに同朋会運動をぶち壊している。それから、廃寺をするには伽藍を宗派が資金援助して解体し、棟木や駆体に使われる木材を宗派で保管し、生き残っている末寺の改修や新築に再利用すべき。それから、週末の法事が儀式だけになりがちな寺に法話者を派遣したり、霊園に法話者を派遣したり、末寺の住職に丸投げしないで、宗派をあげて教化すべき。真宗聖典の二版が出たら、宗派の責任として教師資格のある人に配布してください。現場の人間に教化してもらうために当然です。それから、オンラインで実施される全国の法話を教区を超えて宗派で集約し、一般の人が好きな法話をいつでも見ることができるようにホームページやシステムを作るべき。それから、組会計と末寺の日々の会計処理が住職の負担になっている。宗派でシステムやソフトを作り、負担を減らして教化に時間を使えるようにすべき。それから、組の法話会のオンライン配信サポートをする仕組みを作り、会場のキャパを気にせずに法話会を開き、新しい門徒の確保をどんどん進められるようにすべき（もちろん多言語の法話会も含む）。多言語化できれば、対象は日本から世界に広がる。やるべきことは山ほどある。投資など考えている暇はない。（寺院関係者／40代）

#### 【要望】

- ・各寺院の負担があまり大きくないものにしてほしい。（寺院関係者／40代）
- ・地方切り捨てのような結果にならないことを期待します。（寺院関係者／30代）

- ・委員会として、具体的提案を早く出してほしい。（寺院関係者／70代）
- ・アンケートで得たさまざまな意見をもとに、細かく丁寧に協議していただきたい。付度や結論ありきでは協議とはいえない。（寺院関係者／40代）
- ・門徒との縁、法縁をつなぐ最前線は末寺である。個人の意識、やる気の問題に矮小化させて自己批判をせずなし崩しに各種研修会の実施や冊子の作成をしていたのがこれまでの宗派の姿勢と思う。末寺が言い訳の余地のないほど、本当の意味で住職のやる気だけが問題になるレベルで宗派として最大限のフォローになる事業実施、制度構築、出版物作成をお願いしたい。単なる講義の実施や冊子の配布にとどまらず、自由な発想で議論してほしい。そこには当然、教区でやるのか本山でやるのか役割分担の議論も関わってくるだろう。（寺院関係者／30代）
- ・門徒会の意見や他団体や他の宗教団体でも学ぶところは学んでほしい。（寺院関係者／50代）
- ・教区改編を進めている教区に対して、予算編成などに影響されないこと望む。（寺院関係者／40代）
- ・小規模寺院の意見を取り入れてほしい。（寺院関係者／30代）
- ・お寺の収入だけでは生活できない方がたくさんいらっしゃいます。また、お寺へのお布施等を行うことが生活に大きな影響がある方もたくさんいらっしゃいます。こういった協議では、何らかの結論を出さなければならないでしょうが、無理に誰かの考えが消されるくらいなら「結論が出なかった」と言ってください。大変なお仕事だと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。（寺院関係者／40代）
- ・委員会発足から1年、「もっと急げ」「早くトップダウンで決めろ」という声もありますが、やはり色々な立場の声を丁寧に集めてボトムアップで進めていただきたいと思います。特に「財」の問題は、地域により現状はもちろん歴史的背景も大きく違うことが多いので。（寺院関係者／50代）
- ・「改革の全てが宗務官僚都合の良い施策」と言う残念な意見をよく聞く。その為には情報を今まで以上に言葉で教務所等を通じ言葉で伝えてほしい。（寺院関係者／50代）
- ・わからないからお知らせの機会を作ってください。（門徒／80代～）
- ・透明性を大事におすすめてください（寺院関係者／50代）
- ・あらゆる層から幅広く意見を聞くことを忘れないでほしい。（寺院関係者／60代）
- ・お西の安永さんのように外部からの人材を登用してほしい（寺院関係者／40代）
- ・多様な地域事情に配慮していただきたい。（寺院関係者／60代）
- ・明るい未来だけではなく現実を見た協議を進めてほしい。（寺院関係者／20代）
- ・継続的に、柔軟性をもって進めていただけたらと思います。（寺院関係者／40代）
- ・現在の入札、価格決定は不正の温床、談合、不信の原因であり公明正大化を図れ。（門徒／80代～）

- ・若手が元気になる改革案を示してほしい。（寺院関係者／60代）
- ・各教区への教化費を減らさない。（門徒／80代～）
- ・協議進捗報告はもっと細かく、丁寧に真宗や同朋新聞を活用してほしい。（門徒／70代）
- ・確実にできるもの、ステップをふんで中・長期で進めるための提案を明確に進めてほしい。（門徒／60代）
- ・門徒会員にわかりやすい、専門用語はできるだけ少なくして（門徒／80代～）
- ・過疎問題を進めてほしい（門徒／70代）
- ・真宗本廟護持も大切だが、財政が厳しい地方の寺院の維持についても真剣に検討してください（寺院関係者／50代）
- ・人事について存じ上げない方々が多数でございますが、真城氏のご法話は楽しみにし機会を作って拝聴していますので、個人的に真城氏が委員長でリードしてくださることは歓迎です  
フォローアップ研修内容の充実、特にお寺の運営（経営）の研修、「住職である」から「住職になる」研修の受講義務化実現を希望します。（寺院関係者／70代）
- ・現状の報告書では、委員会体制と項目のみしか挙がっておらず、どう読んでいいのかわかりません。宗門がどこに向かうのか、そのためにどのような手立てなのか、そしてそれによって真宗僧侶や門徒の現代のすがたはどうあるべきなのか、整理された状態で公開をいただきたいと思います。（寺院関係者／40代）
- ・慎重審議をお願いいたします。（寺院関係者／50代）
- ・御門徒の懇志を大切に使って欲しい（門徒／70代）
- ・各教区で出た問題点を協議してほしい（門徒／70代）
- ・課題を取り上げ、その課題をどうするのかを協議してほしい（門徒／70代）
- ・門徒の意見をひろく聞いて欲しいと思います。報告書も門徒には難しく、お寺さんがしていることと遠い世界に感じます。門徒と寺院の関係性が疎遠になっている今、所属寺院だけでなく、近隣の寺院の法要等へも積極的にお参りにいけるような開かれた世界をのぞみます。（門徒／70代）
- ・行財政改革、そのものが浸透していない。もっとわかりやすく簡単に説明して欲しい。（寺院関係者／60代）
- ・今回のアンケートを受けて具体的な施策案が提示され、説明会や第2次アンケートを経て答申をまとめていく余裕のあるスケジュールで進めていただくことを強く要望致します。よろしくお願い致します。（寺院関係者／60代）
- ・大いに意見のぶつかり合いを恐れず、進めていただければと願います。（門徒／70代）
- ・もっと門徒にもわかりやすい取り組みにしてほしい。（門徒／70代）
- ・行財政改革検討委員会と宗参両議会との関係を明確にして、形式的な検討委員会に終わらせないものとしていただきたい（このアンケートも含め）。また、検討委員会の三改革に関する

提言については各教区と各組で議論する場を持っていただきたい。よろしくお願ひ致します。

（寺院関係者／60代）

- ・一定の見解を示す時期ではあるとは思いますが、現状に応じて、時間を費やしても慎重に進めていただきたいです。（寺院関係者／50代）
- ・小委員会の報告を元に順次調整していただきたい。随時報告更新してください。（寺院関係者／60代）
- ・とても大事なお仕事だと思います。周辺化された声や現実がなるだけ掬い取られるような議論をお願いいたします。（寺院関係者／40代）
- ・一カ寺を、ご門徒や寺族一人ひとりを見捨てないという姿勢を忘れないでほしい。経済的にも時間的にも教化活動が厳しいお寺のことを思い浮かべながら、協議を進めてほしいと思います。（寺院関係者／50代）
- ・検討委員会の体制の見直し宗門の関係者だけでは、抜本的な改革についての意見抽出は難しい。部外者からの指摘を受け止め、検討を進めて欲しい。（寺院関係者／40代）
- ・今回のアンケートは、行財政改革検討委員会で協議すべき課題の項目を列挙したものに対して、今後小委員会で協議するべきと思う課題がないかを問うもので内容を問うものではありませんでした。今後、「行財政改革推進計画」が立案された後に、再度、内容を問うアンケートを実施していただきたいと思います。課題が多岐広範囲に亘るため、アンケートは重要な争点となる項目に絞り、特に那須参務が答弁で言及している「交付金制度の改革（教化交付金の廃止）」「歳入構造の変成（御依頼金の義務化）」「各種資金の統合（仮称財政調整基金の新設）」の3点について、広く意見を聴取し具体的な施策に反映させていただくことを要望します。（寺院関係者／50代）
- ・詳細が不明なのであるともないとも回答できないので、委員会以外の人にも分かるように協議内容を公開してほしい。（寺院関係者／50代）
- ・まず、委員会の議事録を公開してもらいたい。進捗報告全文だけでは具体的な話がわからない。現状分析が甘いし、現場でどんな教化活動がなされているのか把握しているようには見えない。現場の人間が全力で教化できるように援護するのが宗門の仕事です。（寺院関係者／40代）
- ・もう少し詳しい進捗状況や、各教区での意見等を提示していただきたいです。現状の報告ではアンケートに答えにくいというか、情報の透明性を望みます。（寺院関係者／40代）
- ・今後も公開ください。（寺院関係者／50代）
- ・報告書、大変難しく何度も読み直しました。頭の体操になりましたが、もっとわかりやすい方途を検討していただきたい。（門徒／80代～）



【懸念・疑念】

- ・「宗務改革に臨む姿勢として、……これまで固定化して考えている仕組みや制度について、それを握りしめたまま議論するのではなく……」とあり、そのうえで「抜本的な改革をしなければならない」と述べてありますが、委員名簿を見ると、宗務の関係者に限られています。宗門外の学識経験者や実業界の実力者等に参加いただきアドバイスをもらうべきと考えています。このままだと固定化した仕組みや制度にこだわって根本的な改革ではなく単なる改善になってしまう恐れがあると思います。（寺院関係者／70代）
- ・まず、この委員会が何を決めようとしているのかわからない。改革の大きな理念なのか、具体的に取り組むべき課題の抽出なのか、具体的な対応策の策定なのか。こんな大きな委員会であまり細かなことまで決めても机上の空論になるように感じる。（寺院関係者／40代）
- ・地域それぞれ特色があり、これまでの歩みも地域によって様々ではあるがコロナ禍明け、トライ&エラーの時期にあると思う。ですから情報共有していろんな方策を試してみたい。このまま何もしないでもがくこともしないで終わるわけにはいかないと思っています。（寺院関係者／50代）
- ・全体的に今般の動きについて、誤解されている向きが依然として多いと見る。今回は宗門の行財政改革案であり、そこに一か寺のマネジメント（一部の教化を除く）は勘案されていないことはしっかりと伝えるべき。一般寺院は一般寺院として、組は組として、教区は教区として、それぞれルールに則ったマネジメントを考えてほしいと伝えるべきである。だから、今回の委員選定についても、私たちは疑問を抱えたまま案を読み進めることになる。第5号委員に学識経験者のみならず宗務経験者を加える点に疑問があった。在野の方や教区会／教区門徒会メンバーに、宗務機構について深く考察を加える方が多くいるのにそちらに目を向けない理由は、宗務に精通している方が議論の展開が早いスピードを重視するものであることも理解できるので、予めそれをリリースしないと、誤解が誤解を招き続けると思う。（寺院関係者／50代）
- ・教区と教区合併で改編しようとしているところに安易さを感じる。教区の改編は教区だけに任せるのではなく、本山も加わった協議にすべきではないか。（寺院関係者／50代）
- ・男女平等参画とは、どのレベルで（各組門徒会か、教区か、参議会か）？強制的に参画させないと難しいと思う。今のままで、どうしてダメなのか疑問。本当に平等が出来ると思いますか？（門徒／70代）
- ・スピード感、機動力が求められる改革において、1年間で何ら具体的提案に至らなかったことは非常に残念である。また、宗派のグランドビジョンを含む大目標設定を伴う改革案を果たして向後1年で提案できるのか甚だ疑問。ただでさえ構成人数が多く、課題の把握度、関心事がバラバラの委員会において結論を導き出そうとするならば、事務局主導のたたき台をもとに協議しないと、各論に終始することは火を見るより明らかである。あとは明年提案予

定の改革案を軌道にのせる政治的プロセスが最も重要であることは当局も認識されていることかと思えます。（寺院関係者／40代）

- ・ 来年4月までの任期中の三本柱の取りまとめは時間（審議）不足。参議会の改選を考えず2～3年後まで十分検討を。（門徒／70代）
- ・ 一見、どれも大切に見えるが、具体的なものが示されていないので共感しきれぬかという問いに対しては「いいえ」にした。実際のところ課題をどのように実現するかという部分で悩んでいるのではないか。例えばであるが、相続講金の志納により各寺院の予納扱い等がされるのと同じくお内仏のご本尊などの礼金にもそういった扱いが出来るのか考えていただけたらと思う。従来の仏壇が減少傾向にある中、ご本尊も仏壇屋が用意するものになることも少なくない。そういう状況をどう見るのか。また「つながる組織」ということを掲げているが、何によってつながっているのかということに十分注視したうえで考えていく必要があるように思う。先日の所長人事もしかりそもそもパワハラ等でスッキリしていない方が目に付くのでそこらへんどんな感じなのだろうか・・・そもそも僧侶同士が線を引こうとする理由というものが何かしらあるのではないか。専業と兼業というだけでも見え方は全く違う。個人的な意見ではあるが、末寺は単なる集金箱にしか見えないと錯覚させるような基本理念はいかなものかと思う。末寺に生きるものとして一番に支えなければいけないのは目の前の門徒であり現場である。それが必然と宗門護持につながっていくものと考えているが、「教財一如」とはちゃんちゃらおかしい。それならば、投資やスーパーなどなどどうしてこうなったのかというところを思わずにいられない。本山の財政難に比例して多くの寺院が財政で厳しくなっているのではないか。またそこに所属する門徒も含めてである。そういうことを加味した上で考えることであるが、教区費等の増額等は各教区の考えることとして、本山としてはいかに安定財源の確保していくか考えていく方向のがいいのではないか。「教財一如」各地方からではなく、本山から今回のような理念を掲げていくのは何か違うのではないか。（寺院関係者／30代）
- ・ おそらく全教区から代表で最低一人は参加されているであろう会議。その人ばかりに負担が集中していないから気になるころではあります。（寺院関係者／30代）
- ・ 当アンケートの集計後、中間報告として説明会が各教区で開催され（東京教区は2024/2/8）、2024年5月に答申が予定されているとお聞きしました。各教区の説明会が終了してから答申をまとめる期間が短すぎるのではないかと憂慮します。（寺院関係者／60代）
- ・ 小委員会での協議内容、組織機構改革についてですが、⑤⑥が主眼（本音）であり、その他は本音を隠す（薄める）ための項目に映ります。p7以降の「6委員会の開催・協議運営内容」を見て、愕然といたします。これだけ協議の場を開いていて、挙げられている内容に目を開かされるものではなく、これまで教区・組・寺院単位ですでに協議されている内容の焼き直しであります。本気なのでしょうか。（寺院関係者／50代）

- ・ 会議回数が多くてこの内容。7回の会議費用はどのくらいかかっているのか。7回の会議をすれば立案の格子を提示してもいいのではないかと。あと、同じような小会議が本山で開かれているだろうが横の連携はどうなっているのか。縦割りで事業を進めるなら今までと何も変わらないと思っている。あと、門徒戸数調査は寺檀制度の崩壊した現代ではもう通用しないと思う。全国の大都市ではどれだけ正確に調査で来ているのか。同朋会運動の大きな欠陥はここにあったのではないかと。（寺院関係者／40代）
- ・ 2021年度の内局巡回での協議・質疑について何も触れられてないですが、「内局案」をベースに進めているのでしょうか、それとも全くの白紙に戻したということでしょうか。また、内局巡回はどう総括されたのでしょうか。その点を知らされずアンケートに回答することは、意図も汲み取りにくくとても難しく感じました。当局におかれてもかなりかじ取りが難しい局面を迎えているような、そんなことを憶測しております。期待することとか、その点を心配しつつ、もっとオープン（具体的）に情報を開示していただきたいと思います。（寺院関係者／40代）
- ・ 正直、このアンケートをこのタイミングでとられたことの意味が理解し難いです。次期宗会までのわずかな時間で、この結果を小委員会で生かしていけるのでしょうか。（広報を課題としながら、真宗、同朋新聞への取り上げ方には正直驚きました。あるいはSNS上でも全く話題とされないのも奇異な感じがしました。）どうぞ、せつかく教勢調査がありますから、それを生かしてください。このままでは、縦割り行政の悪いところが出ていて感じています。改革を目指す委員会の行動としては残念です。なお、このアンケートの結果については是非公表してください。アンケート結果を公表しないことは、回答者からのいらぬ不信感を生むこととなります。（寺院関係者／50代）
- ・ 前回の「内局案」のようなかたちにならぬよう、進捗状況報告とオンラインアンケート参加があるとよいと思います。（寺院関係者／50代）

#### 【評価】

- ・ 回答のしやすいオンラインのアンケートは協議の進みにプラスだと感じました。（寺院関係者／40代）
- ・ こういった、パブリックコメントのような形で、末寺や一般門徒の声を拾い上げる試みを行ってくれたことに謝意をおくりたい。実際に、どのような声があがったか。応募数はどうだったかなどの成果も聞きたいと思う。大きく期待している。（寺院関係者／30代）
- ・ 今回の様な形でアンケートがあれば良い。（寺院関係者／40代）

#### 【その他】

- ・ 所属教区・寺院が、親族単位なのか、世帯単位なのか、個人単位なのか、よく分かりません。

親族が全国に散らばっています。その中には、異なる教区生まれの二世、三世の親族が多数います。柔軟に対処すべき課題なのかもしれませんが、所属寺院が不明である件や、仏事代行等、東京教区の抱える問題は、今や、全国にまたがる課題ではないかと思います。（門徒／60代）

- ・コンサルタントを入れたことがよくわかる言葉遣い（やたら横文字など）が散見されますが、コンサルタントは、責任を取りません。責任ある立場の方が、その責務を全うして進めていってください。経済社会において、コンサルティングを入れて失敗した例は、数多くあります。（寺院関係者／40代）
- ・「宗門という、信仰をもとにした共同体が、聞法という場を通して、主体性をもって「念仏もうす身となる」ことを願う運動を推進する」の意味が全くわからない。主語は「宗門という～共同体が」であろうが、その述語は「願う」なのか「推進する」なのか。また述語が二つあるのに、それに対応する主語の一つが見つからない。正式にリリースする文書において十分な推敲はなされたのだろうか。たくさんの委員がいて、文章作成する事務方がいて、幾度も推敲してこれならば、教化はそもそも行き届かないと思う。言語運用能力が欠如している。これでいいと思う人たちばかりの委員会は果たして「宗門白書」を読み込んでいるのか不安になる。恐らく最初になすべきことは「宗門白書」の現代語訳である。そして同朋会運動を再解釈して、現代の私たちが理解できる、わかりやすい表現に直すべきだと思う。この報告に念仏が一箇所しかでてこない。同朋会運動の説明の段のみであり、果たして同朋会運動はそういう運動なのだろうか。「主体性をもって念仏もうす身となる」人を育むのが同朋会運動であるならば、総長がいうところの「simple is effective」を再考してほしい。（寺院関係者／50代）
- ・具体的な取り組み方法を各寺院にまで行きとどく。（門徒／70代）
- ・内容よりも手続き上の不備ということを主張する寺族が存在するので注意されたいが、金沢能登等教区合併と財政改革の制度改革でどのような教化上の課題が予想されるか懸念される。問題を提議する当人の政治的スタンスが教学に影響を与えるのは理解されているが、。（寺院関係者／60代）
- ・よろしくお願いします。（寺院関係者／50代）
- ・委員会協議の進捗状況が「真宗」、ホームページへの掲載のみですませる広報のあり方について、ぜひ検討して欲しい。「組織の限界論」を簡単に持ち出さないで...。（寺院関係者／60代）

**【期待なし・特になし】** 13件

- ・特にありません。真摯な協議と早急な答申を期待します。（寺院関係者／60代）
- ・今の程度の議論では期待できない。頑張っ欲しい。（門徒／80代～）
- ・中間報告の範囲では期待できません（寺院関係者／70代）

2023年10月31日締め切り（最終結果）

- ・現時点では期待することは無い。今の段階でアンケートをとること自体に理解ができない。なぜなら、理念と内容は素晴らしいが行財政改革である以上、具体的な目標値などの数値を定め可視化して議論されていないから判断ができない、意見が言えないから。（寺院関係者／40代）
- ・各委員がどこまで各寺院の実態をご存知か疑問。余り期待出来ない。（寺院関係者／60代）

以 上